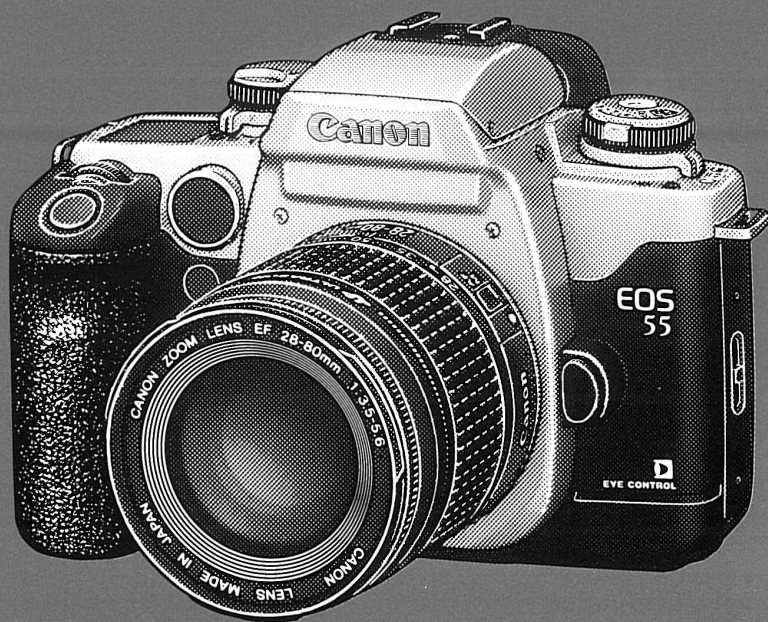


# Canon

# EOS 55



  
EYE CONTROL

  
株式会社 日本カメラ

使用説明書

  
日本語版




# キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

## おもな特長

1. 見つめるだけでオートフォーカスのできる視線入力AF搭載。カメラを縦に構えても横に構えても機能する視線入力AF (AUTO FOCUS/オートフォーカスの略で自動でピントを合わせる機能)。
2. 自由な構図で撮影できる3つのAFフレームとAIMシステム\*を持ったオートフォーカスカメラ。  
\* AIM (Advanced Integrated Multi-Point Control)とは、ピントを合わせたAFフレームに連動して露出、ストロボ調光を自動的に最適に決める仕組みです。自由に構図を決めてシャッターを押すだけで、誰にでも気軽によい写真が撮影できます。
3. 高級感と堅牢性を十分に満たした高品位な金属外観の採用。
4. 2つの独立した操作ダイヤルと2つの操作レバー、そして好評のダブル電子ダイヤルによるモードの設定がダイレクトに簡単にでき、その状態が一目でわかります。
5. サイレントメカニズムによる静粛な作動音。

お買い求めのEOSは全てのキヤノンEFレンズをお使いいただけます。この使用説明書ではEFレンズを取り付けた状態で説明しています。

本文中の以下のマークのついた欄は、それぞれ次のような内容になっています。

-  : 故障などカメラの不都合が生じる恐れのある注意事項がかかれています。
-  : カメラを操作する上で知っておいていただきたい事項がかかれています。
-  : カメラ操作上あるいは撮影時のヒントがかかれています。

本文中に (→■ページ) と表示されているのは、その箇所と関連のあるページを示しています。あわせてお読みください。

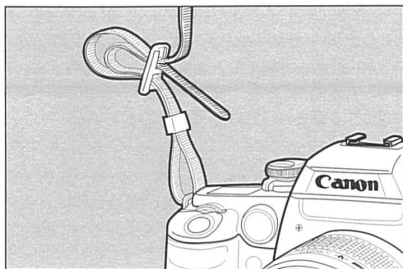
撮影の失敗や事故を未然に防ぐため6ページの「取り扱い上のご注意」もお読みください。

読み終えた使用説明書はいつでも取り出せる場所に置いて、カメラをお使いになるたびにご活用ください。

## ご使用になる前の注意

- 結婚式や海外旅行などで大切な撮影をする前には必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能することを確認してからお出かけください。
- EOSはキャノンEFレンズとの間で、ピントや露出を調整するために専用の電子マウントを採用しています。他社製のレンズをEOSに使用するとカメラまたはレンズが正常に作動しないことがあります。ご注意ください。またEOSと他社の製品とを組み合わせるとお使いになって生じた事故や故障につきましては保証いたしかねますのであらかじめご了承ください。

## ストラップ（吊りひも）の取り付け




ストラップ（吊りひも）の先を止め具の内側になるように通します。ストラップを引っ張っても止め具の部分でゆるまないことを確かめてください。

- 当カメラの外観色は、シルバーとブラックの2種類があります。

	ストラップの取り付け .....3 取り扱い上のご注意 .....6
[ I ]	<b>撮影前の準備</b> 1.電池のセットと電池容量の確認 .....17 2.レンズの取り付け、取り外し .....19
[ II ]	<b>基本的な撮影</b> 1.全自動マーク ( <b>Q</b> ) で撮る .....24 AF補助光について .....26 ストロボの自動発光について .....26
[ III ]	<b>AFモードと測光方式</b> 1.3点AF (Auto Focus)と 視線入力AF ( <b>Q</b> ) について .....31 2.AFフレームの選択 .....33 3.画面の端の被写体にピントを合わせる .....36 4.AFモードの変更 .....37 ONE SHOT AF .....37 AI FOCUS AF .....37 AI SERVO AF (動物予測について) .....38 5.オートフォーカスできないとき .....39
[ IV ]	<b>撮影目的に合わせて撮る</b> 1.プログラムAEで撮る ( <b>P</b> ) .....50 2.シャッター速度を決めて撮る ( <b>Tv</b> ) .....52 3.絞り数値を決めて撮る ( <b>Av</b> ) .....54 4.自由に露出を決めて撮る ( <b>M</b> ) .....56
[ V ]	<b>色々な機能を使ってみる</b> 1.パノラマ写真を撮る .....61 2.セルフタイマーを利用して撮る .....64 アイピースカバーの使い方 .....65 3.日付/時刻を入れて撮る .....66 日付/時刻を変更する .....67 クオーツデイト用電池の交換 .....67
[ VI ]	<b>カスタム機能を利用しましょう</b> 1.カスタム機能の設定と解除 .....83
[ VII ]	<b>キヤノンスピードライト 380EXとの組み合わせによる E-TTL自動調光システム</b> E-TTL自動調光システムの特長 .....86 通常発光撮影 .....87 ハイスピードシンクロ (FP発光) 撮影 .....88 FEロック撮影 .....88
	「故障かな？」とお考えになる前に .....90 露出警告一覧 .....91 プログラム線図 .....92 機能組み合わせ一覧 .....93 主なアクセサリ .....94 EOS専用スピードライト .....94



<p>すぐ撮影を始める方のために .....8 機能設定早わかり .....10</p>	<p>各部の名称 .....12</p>
<p>3.シャッターボタンとオートフォーカス ...20 4.フィルムの入れ方、取り出し方 .....21</p>	
<p>赤目緩和機能について .....26 2.ポートレートマーク (👤) で撮る .....27 3.風景マーク (🏞️) で撮る .....28</p>	<p>4.クローズアップマーク (👤) で撮る .....29 5.スポーツマーク (🏃) で撮る .....30</p>
<p> <b>EYE CONTROL</b></p> <p>6.視線入力AFを使う .....40 視線を登録する (キャリブレーション) .....40 7.視線入力AFワンポイントガイド .....43 カメラを正しく構えていますか? .....43 正しい状態で操作をしていますか? .....44</p>	<p>登録した視線の削除 .....45 8.視線入力AFで撮影する .....46 視線サーボAF .....48 視線入力AFの解除 .....48 視線入力でピントの範囲を確認する .....48 9.測光方式の変更 .....49 評価測光 (☒) .....49 部分測光 (☑) .....49 中央部重点平均測光 (□) .....49</p>
<p>5.ピントの合う範囲を決めて撮る(DEP) ...58 選択したAFフレームによる 深度優先AE撮影 .....58</p>	<p>自動選択AFフレームによる 深度優先AE撮影 .....59 視線入力AFによる深度優先AE撮影 ...59</p>
<p>4.内蔵ストロボを使って撮る .....68 赤目緩和機能の設定 .....69 5.AEロックで撮る .....71 6.露出の補正方法 .....72 7.ストロボ調光補正 .....73 8.AEB (自動露出ずらし) で撮る .....75</p>	<p>9.多重露出 (📷) で撮る .....77 10.バルブ撮影 .....79 11.フィルム巻き上げモードの変更 .....80 12.フィルム感度を手動で設定する .....81 13.カメラの電子音を鳴らなくする .....82</p>
<p>カスタム機能で変更できる内容 .....85</p>	
<p>スピードライト380EX以外のEOS専用 スピードライトとの組み合わせ .....89</p>	
<p>単3形バッテリーパックBP-50 .....94 バッテリーパックBP-5B .....94 リモートコントローラーRC-1 .....94 リモートスイッチRS60-E3 .....95 視度補正レンズEd .....95 視度補正レンズ .....95</p>	<p>カメラケース .....95 主な性能の一覧 .....96 カスタム機能一覧 .....99 アフターサービスについて .....99</p>

# 取り扱い上のご注意

## カメラについて

- (1) このカメラは防水構造になっていませんので、雨天下や水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。また水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよく拭きとってください。
- (2) 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますのでこのような中にカメラを放置しないでください。
- (3) カメラには高電圧回路が内蔵されています。危険ですので絶対に自分で分解しないでください。
- (4) レンズやフィルム室内にゴミがついているときは、市販のブローブラシで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどで拭かないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。
- (5) カメラを長期間使用しないときは電池室から電池を抜き取り、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- (6) カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐蝕などの原因になるため避けてください。同様にタンスの中なども避けてください。
- (7) 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかった後や、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキヤノンサービスセンター、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

## 表示パネルについて

カメラの表示パネルは液晶を使用しています。液晶はその性質上、通常の使用でも表示が薄くなり読みにくくなることがあります。その場合は最寄りのキヤノンサービスセンターで液晶の交換をご用命ください（有料）。

なお、液晶の特性で低温下で表示反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

## リチウム電池について

カメラはリチウム電池2CR5、1本を正しく入れてはじめて作動します。次のようなときは、まず電池の容量を確認してください。

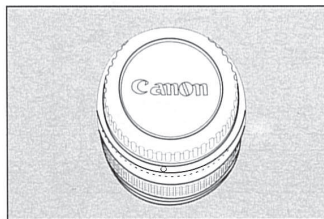
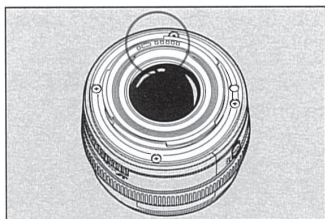
- (1) 電池を交換したとき
- (2) 長期間カメラを使用しなかったとき
- (3) シャッターが切れなくなったとき
- (4) 寒冷地で撮影するとき
- (5) その他、大切な写真を撮るとき
  - 電池をカメラに入れるときは、電池の接点の汚れや指紋などをよく拭き取ってください。そのまま入れると接触不良や腐蝕の原因となることがあります。
  - 電池の分解や充電、高温下での放置、および接点をショートさせたり火の中に投げ入れることは、危険ですので絶対にしないでください。
  - この電池は低温特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池の性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れて保温しながら交互に使用することをおすすめします。

## 電圧の低下とカメラの作動について

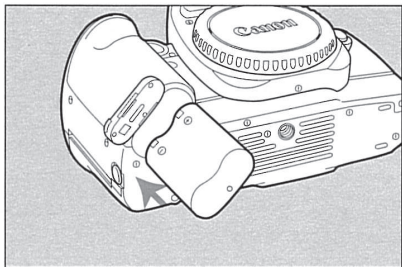
表示パネルに□ (空電池マーク) のみが点滅しても、シャッターが切れれば写真は適正露出になります。ただし、電池の容量が低下しているため、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあります。新品の電池に交換してください。

## 電子接点について

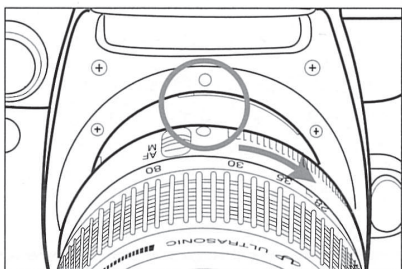
レンズを外したときは、電子接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置くか、レンズのダストキャップを取り付けて置いてください。



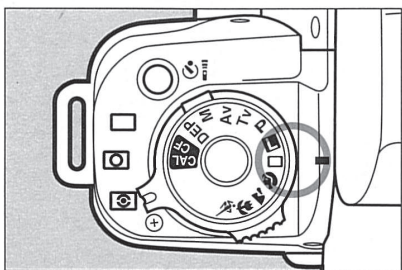
# すぐ撮影を始める方のために



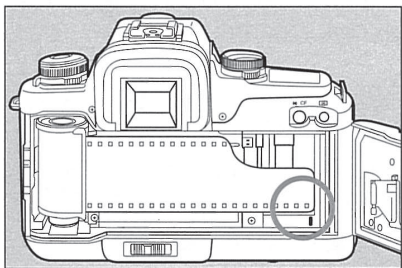
- 1 電池を入れます。  
電池室のふたの表示にしたがってリチウム電池2CR5を入れます。



- 2 レンズを取り付けます。  
レンズとカメラの赤いマークを合わせて、カチリと音がするまでレンズを時計方向に回します。  
● レンズのフォーカスモードスイッチがAFになっているか確認ください。



- 3 ロック解除ボタンを押しながら、撮影モードダイヤルをA（全自動）にします。



- 4 フィルムを入れます。  
フィルムの先をオレンジ色のマークに合わせて、パチンと音がするまで背ぶたを閉じます。  
● フィルムは最初の撮影コマまで巻き上げられます。





## 5 ピントを合わせます。

写したいものをAFフレーム (□) に合わせて、軽くシャッターボタンを押し、ピントを合わせます。

- ファインダー内に合焦マーク (●) が点灯します。



## 6 撮影します。

さらにシャッターボタンを押し、撮影します。

- 被写体が暗いときや逆光のときは、内蔵ストロボが自動的にポップアップして発光します。

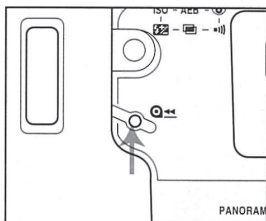
## 7 フィルムを取り出します。

1本のフィルムを撮り終わるとフィルムは自動的に巻き戻ります。背ぶたを開けてフィルムを取り出します。

# 機能設定早わかり

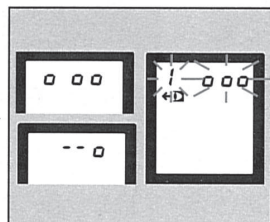
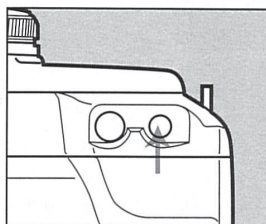
フィルム関係

フィルム途中  
巻き戻し  
23ページ参照

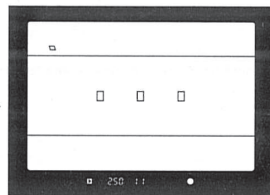
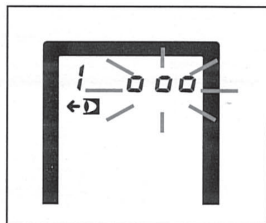


フォーカス関係

AFフレームを  
選択する  
33ページ参照

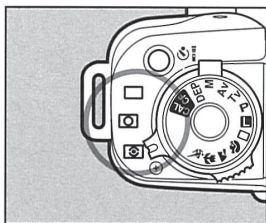


視線入力AFで  
撮影する  
46ページ参照

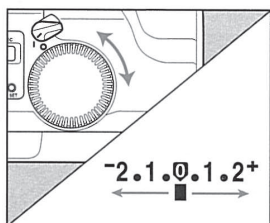
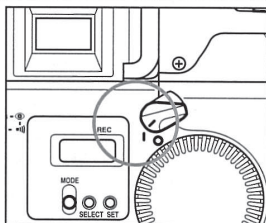


露出関係

測光方式を  
変更する  
49ページ参照

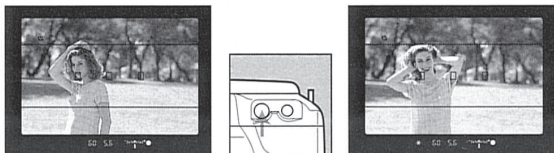


露出を補正する  
72ページ参照



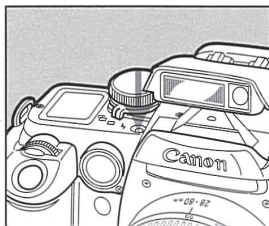
露出関係

AEロックして  
撮影する  
71ページ参照

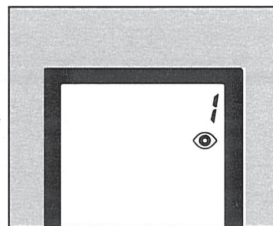
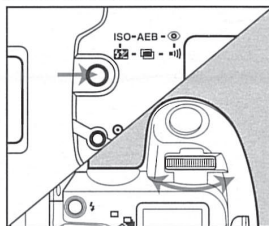


応用撮影

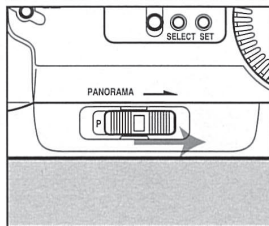
内蔵ストロボで  
撮影する  
68ページ参照



赤目緩和機能を  
設定する  
69ページ参照

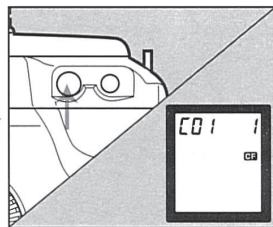
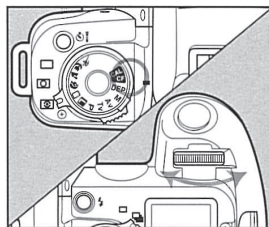


パノラマ写真を  
撮る  
61ページ参照



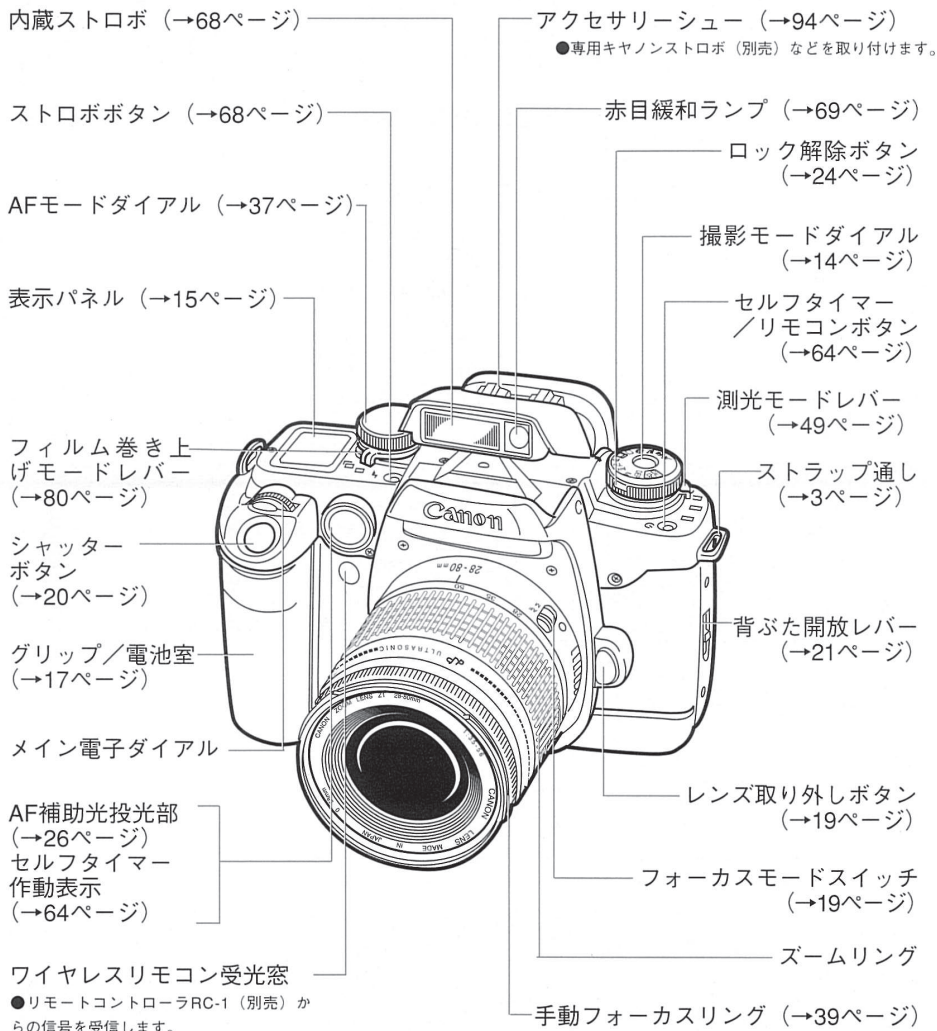
その他

カスタム機能  
を利用する  
83ページ参照



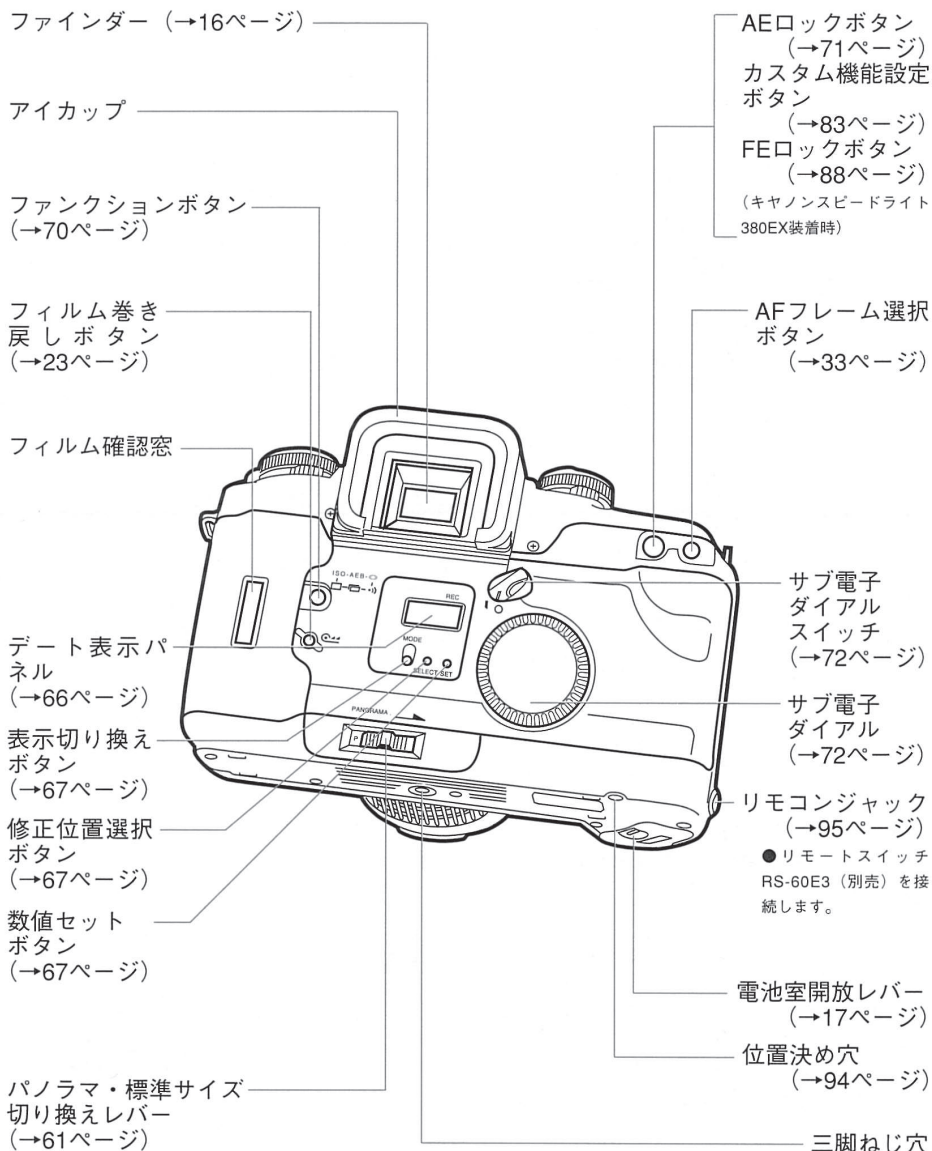
# 各部の名称

## 前面





## 背面



## 撮影モードダイヤル

撮影モードダイヤルは**L**でロックされます。ロックを解除するときはロック解除ボタン押しながら回します。**L**を中心にして上下に回ります。



- L** : ロック
- : 全自動 (→24ページ)

### イメージゾーン

- : ポートレート (→27ページ)
- : 風景 (→28ページ)
- : クローズアップ (→29ページ)
- : スポーツ (→30ページ)

### クリエイティブゾーン

- P** : プログラムAE (→50ページ)
- Tv** : シャッター優先AE (→52ページ)
- Av** : 絞り優先AE (→54ページ)
- M** : マニュアル露出 (→56ページ)
- DEP** : 深度優先AE (→58ページ)

### 機能セットゾーン

- CF** : カスタム機能 (→83ページ)
- CAL** : キャリブレーション (→40ページ)

### 測光モードレバー

- : 評価測光 (→49ページ)
- : 部分測光 (→49ページ)
- : 中央部重点平均測光 (→49ページ)

## AFモードダイヤル

- ONE SHOT AF** (→37ページ)
- AI FOCUS AF** (→37ページ)
- AI SERVO AF** (→38ページ)

## フィルム巻き上げモードレバー

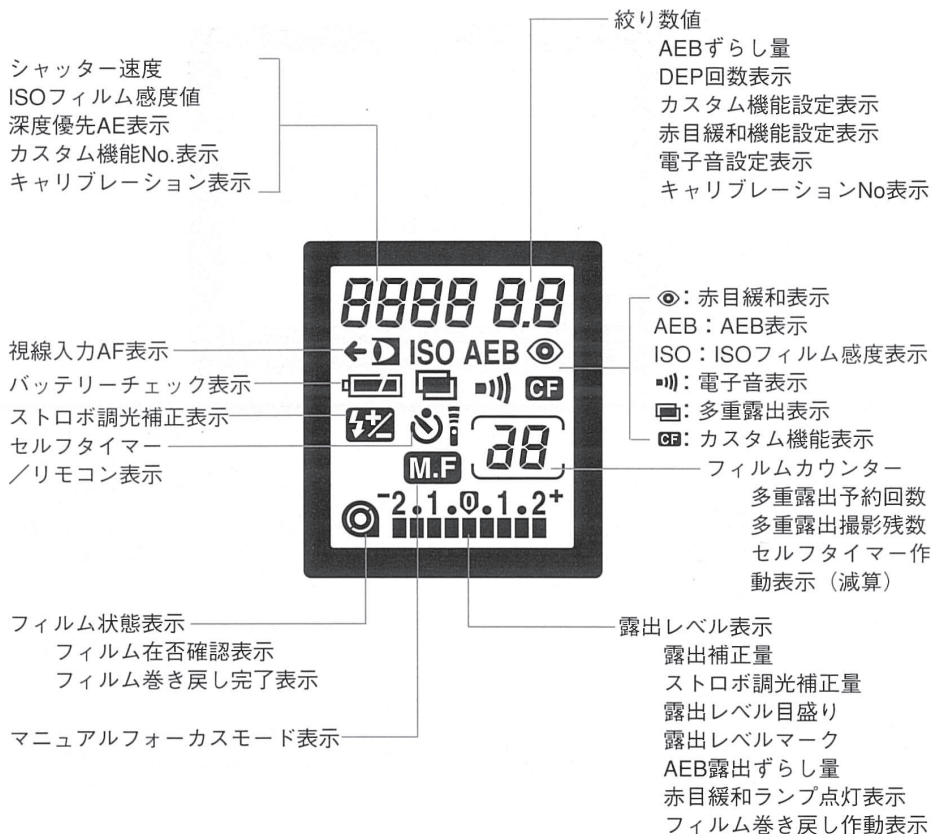
- : 一枚撮り (→80ページ)
- : 連続撮影 (→80ページ)



カメラを使用しないときは撮影モードダイヤルを**L**にしておいてください。カバンの中などで物がシャッターボタンにあたって、シャッターボタンが押され続けていたために電池が消耗してしまった、ということがなくなります。

## 表示パネル

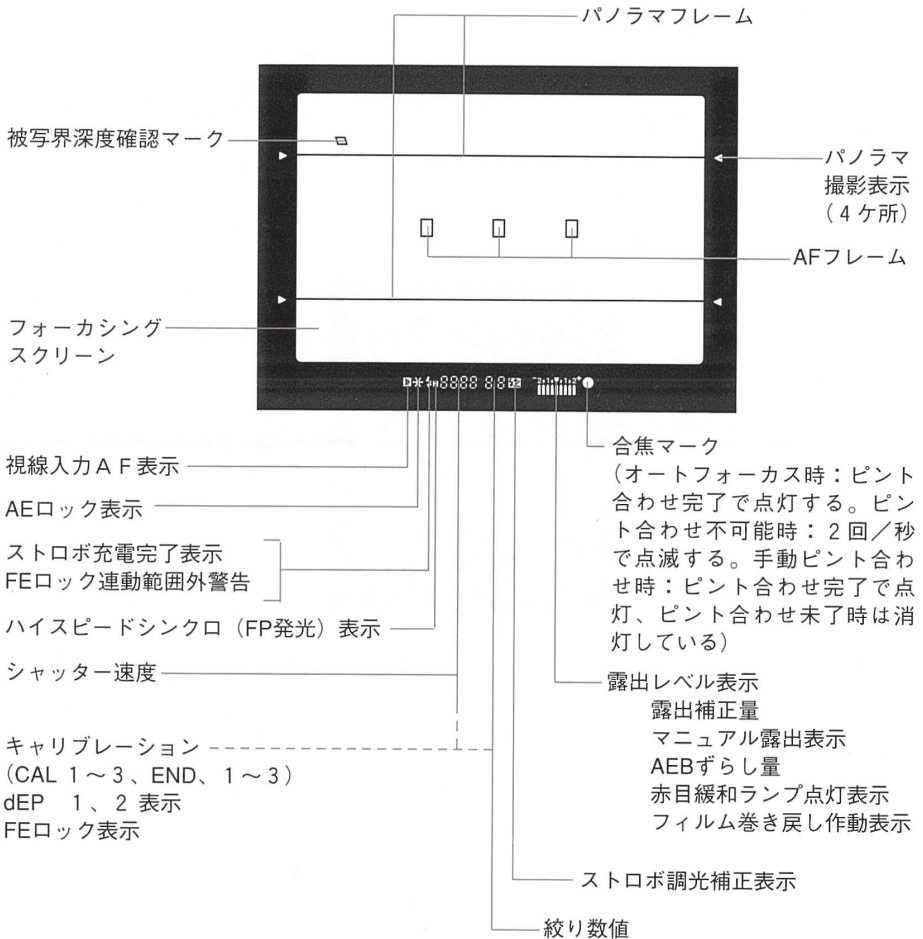
下の図は全てを表示したものです。



## 各部の名称

### ファインダー内表示

下の図は全てを表示したものです。





# [ I ] 撮影前の準備

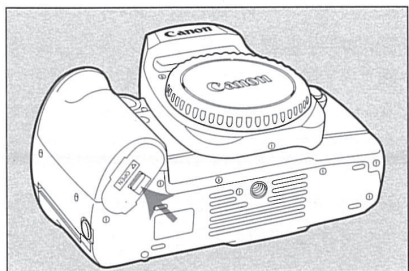
撮影の前にはしておかなければならない準備や、シャッターボタンの働きについて説明しています。

## 1. 電池のセットと電池容量の確認

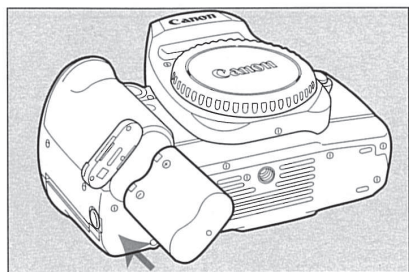
### 電池のセット

電池はリチウム電池2CR5を使用します。

- 単3バッテリーパックBP-50をご購入の方は94ページを参照してください

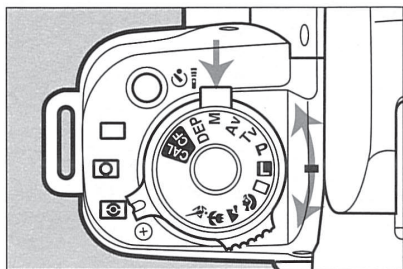


- 1 電池室開放レバーを矢印の方向にスライドさせて電池室のふたを開けます。



- 2 電池の接点を合わせるように電池室のふたの表示にしたがって電池を入れます。

- 3 電池室のふたを閉じます。



## 電池容量の確認

1 ロック解除ボタンを押しながら、撮影モードダイヤルをイメージゾーン（あるいはクリエイティブゾーン）にします。

2 表示パネルに電池マークが表示されます。電池マークは容量を表し、その意味は次のとおりです。

：電池の容量は十分です。

：新しい電池を用意してください。

：もうすぐ電池切れになります。

：7ページを参照してください。

- 電池容量の確認は撮影モードダイヤルのロックを解除およびシャッターを切るたびに行なわれます。



## リチウム電池2CR5の寿命（撮影可能本数）

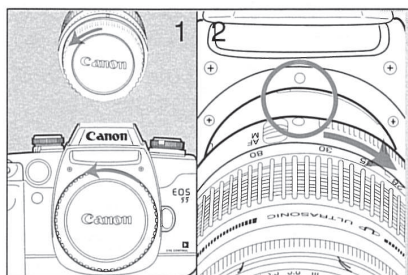
温度	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影	全てストロボ撮影
常温（+20℃）	90本（110）	35本（40）	18本（20）
低温（-20℃）	45本（50）	14本（15）	6本（7）

- テストは、新品電池、EF50mm F1.4USMレンズ、24枚撮りフィルムを使って、当社の試験条件で行なっています。
- 撮影時以外でもオートフォーカスしたり、フィルムを入れずに空撮すると電池が消耗し撮影本数が少なくなります。
- （ ）内は視線なしのときの撮影本数です。



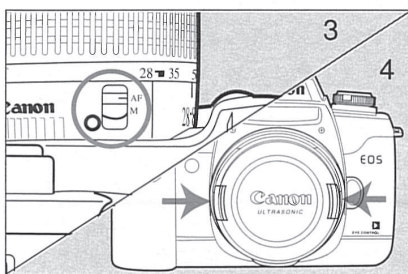
- 表示パネルに何も表示されない場合は電池が逆向きに入っていることが考えられます。正しい向きに入れなおしてください。
- 撮影前は必ず電池の容量を確認してください。
- 地域によって電池の入手が困難ことがあります。海外旅行に出かけるときや、写真をたくさん撮るときは、予備の電池をご用意ください。

## 2. レンズの取り付け、取り外し



### レンズの取り付け

- 1 レンズのダストキャップとカメラのボディキャップを矢印の方向に回して外します。
- 2 レンズとカメラの赤いマークを合わせてはめこみ、レンズを矢印の方向にカチッと音がするまで回します。
- 3 レンズのフォーカスモードスイッチをAFに設定します。

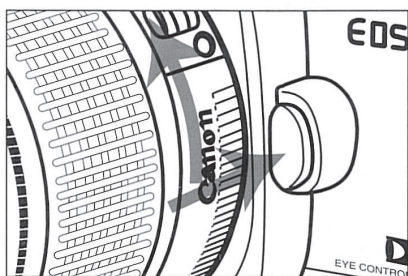


- Mになっているとオートフォーカスできません。
- オートフォーカス作動中は、レンズの回転している部分に触れないでください。

- 4 レンズキャップを外します。

### レンズの取り外し方

レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取りはずします。



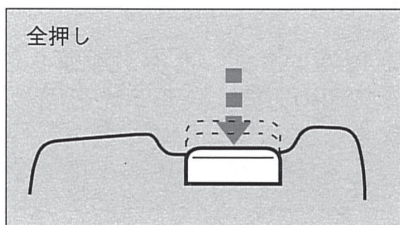
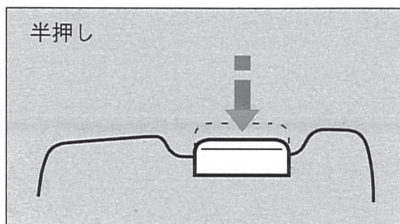
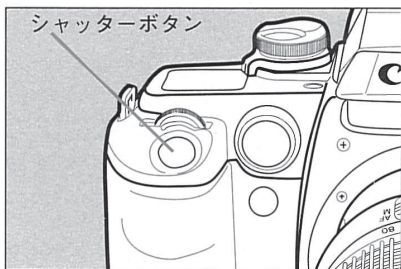
カメラとレンズを正常に作動させる為に、レンズを外したときは電気接点やレンズ部を傷つけないよう取り付け面を上にして置か、レンズのダストキャップを取りつけて置いてください。





### 3. シャッターボタンとオートフォーカス

EOSのシャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで軽く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに深く押し二段目まで押すことを「全押し」といいます。シャッターボタンは次のような働きをします。



#### ◆半押し

- 1) 自動ピント合わせ（オートフォーカス、AF）が働き、写したいもの（被写体）にピントが合うと被写体をとらえたAFフレームが一瞬赤く光り、「ピピッ」と電子音がなってファインダー内に緑色のランプ（合焦マーク）がつかめます。
  - AFフレームは3つあります。
  - AFモードダイヤルをAI SERVO AFにして、AFフレームを自動選択に設定するとAFフレームは点灯しません。
  - AFモードダイヤルをAI SERVO AFにすると合焦マークは点灯しません。
- 2) 同時にシャッター速度と絞り数値が表示パネルとファインダー内に表示されます。
  - シャッターボタンから指をはなしてもタイマーの働きで露出値は4秒間表示されています。

#### ◆全押し

シャッターが切れて撮影され、フィルムを巻き上げます。

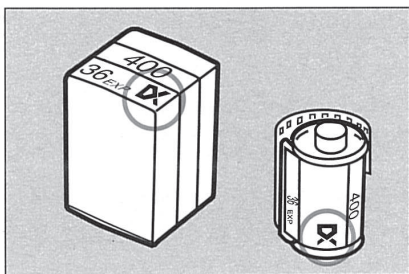


シャッターが切れる瞬間にカメラが動くことを「手ぶれ」といい、全体がぼけた写真になってしまいます。シャープな写真を撮るために次の点に注意してください。

- カメラが動かないようにしっかり構えてください。
- シャッターボタンを指の腹で静かに半押しし、その位置から全押しして撮影してください。



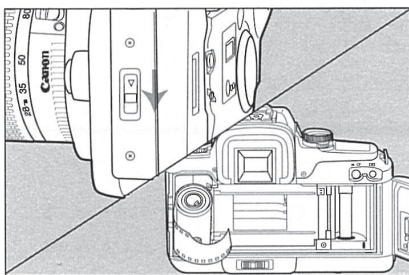
# 4. フィルムの入れ方、取り出し方



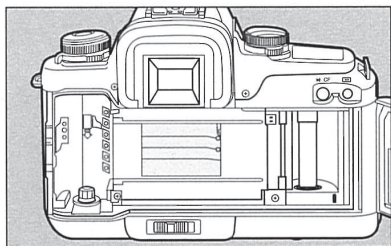
## フィルムの入れ方

DXマークが付いているフィルムをお使いください。カメラがフィルムの感度を自動的に読みとって設定します。

- 1 撮影モードダイアルのロック **L** を解除します。
- 2 背ぶた開放レバーを下げ、背ぶたを開きます。
- 3 フィルム容器（パトローネ）を図のように斜めにしながら入れます。

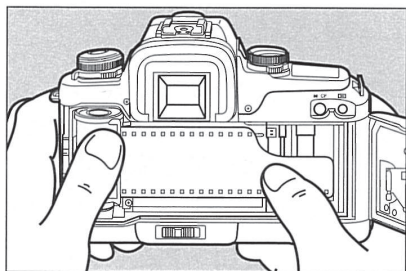


このカメラの特性上、赤外フィルムは使用できません。



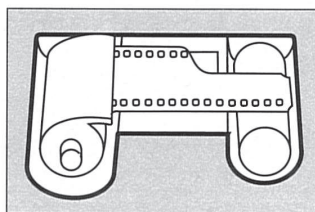
シャッター幕は非常に高い精度で加工され作動しています。絶対に手を触れないでください。また、フィルムを出し入れする際に誤って指やフィルムでシャッター幕を破損・変形させないように十分ご注意ください。

## I 撮影前の準備

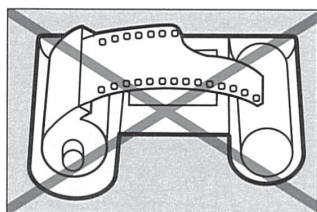


4 フィルムの先端をオレンジマークに合わせます。

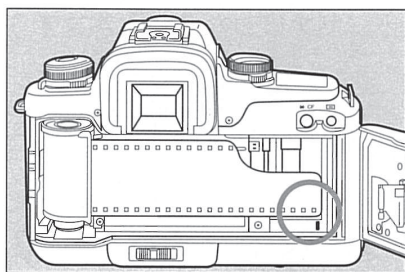
- フィルムがたるまないよう、フィルム容器（パトロネ）を押さえてください。
- フィルムを引き出し過ぎたときはパトロネに少し巻き戻してください。




正しいセット

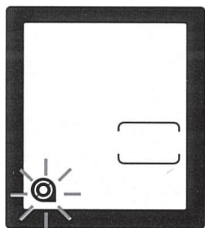


誤セット



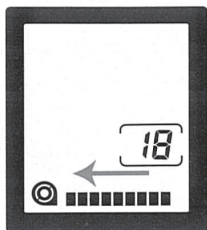
5 フィルムの先端がオレンジマークに合っていることを確認して背ぶたを閉じます。フィルムの巻き上げが始まり、フィルムカウンター表示部にはフィルムの1コマ目を示す「1」が表示されます。

- フィルムの枚数が表示されず  (フィルムマーク) が点滅する場合はフィルムが正しくセットされていません。フィルムを正しく入れなおしてください。

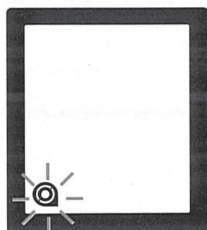


## フィルムの取り出し方

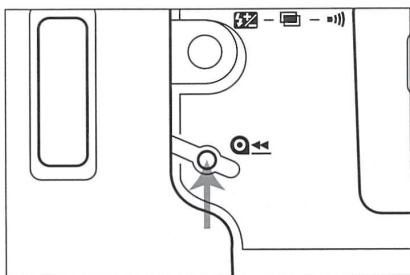
フィルムの最後のコマを撮影すると自動的にフィルムの巻き戻しが始まります。



- 1 巻き戻しが始まると、表示パネルとファインダー内にフィルム巻き戻し作動表示が右から左に動いて巻き戻し中であることを示します。同時にフィルムカウンターの数字も一つずつ減っていきます。



- 2 巻き戻しが終了すると、表示パネルに◎（フィルムマーク）が点滅します。表示を確認し背ぶたを開けてフィルムを取り出します。



## フィルムを途中で取り出すには

撮影の途中でフィルムを巻き戻すときは、◎←（途中巻き戻しボタン）を押します。直ちに巻き戻しが始まります。このときは、ファインダー内表示はありません。



フィルム巻き戻し中、通常サイレント巻き戻しにセットされていますが、途中巻き戻しボタンを押すたびに随時、サイレント巻き戻しと高速巻き戻しの切り換えを行うことができます。



巻き戻しの直前にミラーが作動する音が聞こえますが、問題ありません。

## [Ⅱ] 基本的な撮影

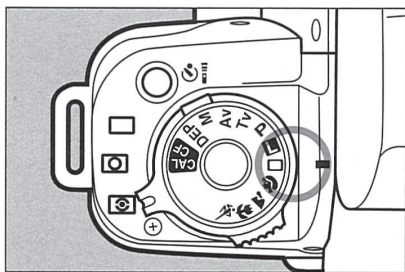
ここでは撮影モードダイヤルの全自動モード、およびイメージゾーンを使って簡単に写真を撮る方法を説明しています。全自動モード、およびイメージゾーンは、シャッターボタンを押せばカメラまかせでイメージに合った写真が撮れるように、全てが自動設定されています。

全自動モード、およびイメージゾーンに設定した場合、測光モードレバー、AFモードダイヤル、カスタムファンクションの設定、フィルム巻き上げモードレバーによる設定は機能しません。各イメージマークは93ページの「撮影機能の組み合わせ一覧」の状態に自動設定されその内容および組み合わせは変更できません。

各モードダイヤルおよびレバーに設定された機能とは必ずしも一致しませんのでご注意ください。

### 1. 全自動マーク (O) で撮る

全自動マークでの撮影は、どんな被写体でも気軽に撮ることができます。3つのAFフレームで被写体をとらえるので誰でも簡単にきれいな写真が写せます。

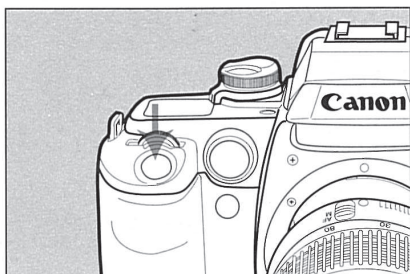


- 1 ロック解除ボタンを押して、撮影モードダイヤルをO（全自動マーク）にします。



- 2 ファインダーをのぞいて3つのいずれかのAFフレームを被写体に合わせます。
  - AFフレームから外れている被写体にピントを合わせるときは、36ページの「画面の端の被写体にピントを合わせる」を参照してください。





3 シャッターボタンを半押しします。被写体にピントが合いシャッター速度と絞り数値が決まります。

- ピントがあったAFフレームが一瞬赤く光ると同時にファインダー内に緑色の合焦マーク（●）が付きます。
- 表示パネルとファインダー内にシャッター速度と絞り数値が表示されます。



4 シャッターボタンを全押しして撮影します。





- シャッター速度の点滅による警告（手ぶれ警告）  
全自動モード、およびイメージゾーンでは、シャッター速度が手ぶれを起こす恐れのある設定になると、シャッター速度が点滅します。このようなときは次のいずれかの方法で撮影することをおすすめします。  
1) カメラの構え方とシャッターボタンの押し方に十分注意して撮影する。  
2) 三脚を使用して撮影する（三脚を使用しても手ぶれ警告は消えません）
- 合焦マークの点滅  
合焦マークが点滅するときはシャッターが切れません。90ページを参照してください。



### AF補助光について


ピントが合いにくい状況では自動的にAF補助光が被写体を照らし、ピントを合わせやすくします。

### ストロボの自動発光について

□(全自動)およびイメージゾーンの  (ポートレートマーク)、 (クローズアップマーク) では被写体が暗いときや、逆光など被写体の背景が明るすぎるときはストロボが自動的に上がって発光します。



ストロボ撮影が禁止されている場所や、室内の照明を利用した写真を撮りたいときは、基本的に「プログラムAE」(P) (50ページ) で撮影することをおすすめします。又、シャッターボタンを半押ししたままストロボを手で押し下げると、ストロボを発光させずに撮影することもできます。

- ストロボを押し下げるときは、ストロボが完全に上がってから手で押し下げてください。途中で無理に押し下げると表示パネルに  (空電池マークの点滅) が表示されエラーとなります。その場合はシャッターボタンを半押ししてエラーを解除してください。

### 赤目緩和機能について

夜や暗い室内などで人物をストロボ撮影したときに目が赤く写ることがあります。これはストロボの光が人物の目の中で反射して起こる現象で「赤目現象」といいます。

赤目緩和機能をセットするとストロボ撮影で赤目現象が出やすいとき、赤目緩和機能がはたらいて自動的に赤目緩和ランプがつき、写る人の瞳を小さくして赤目現象を出にくくします。

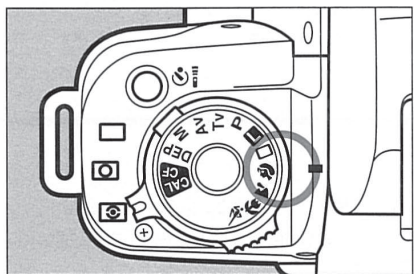
- 赤目緩和機能はどの撮影モードでも設定することができます(設定方法は70ページをご確認ください)。

## 2. ポートレートマーク (👤) で撮る



背景をぼかして人物を浮き立たせた写真撮るようなときに設定してください。

- 連続撮影モードに自動設定されシャッターボタンを押し続けると連続撮影になります。
- 被写体が暗いときや逆光など被写体の背景が明るいときは、ストロボが自動的に発光します。



撮影モードダイヤルを👤（ポートレートマーク）にします。

- 撮影の手順は全自動マークで撮る（24ページ）と同様です。ご参照ください。

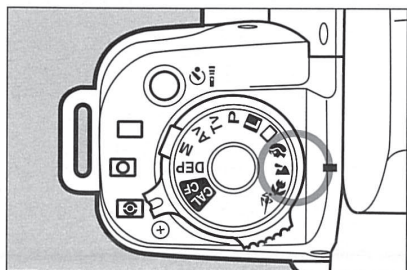


- 被写体の頭から胸がファインダーの中いっぱいになるくらいにすると背景を効果的にぼかすことができます。また被写体をできるだけ背景から離すとよいでしょう。
- 望遠系のレンズを使用すると背景をさらに効果的にぼかすことができます。ズームレンズをお使いの方はレンズを望遠側（28 - 80mmのレンズなら80mmです）にしてください。

### 3. 風景マーク (🌄) で撮る



広がりのある風景や夕焼けなどを撮るようなときに設定してください。



撮影モードダイヤルを 🌄 (風景マーク) にします。

- 撮影の手順は全自動マークで撮る (24ページ) と同様です。ご参照ください。



- ズームレンズをお使いの方はレンズを広角側にして撮影してください (28 - 80mmのレンズなら28mmです)。近くから遠くまでの奥行きに加えて、横の広がりも表現することができます。
- パノラマ撮影機能を利用するとさらに雄大な感じを表現することができます (61ページ「パノラマ写真を撮る」を参照)。



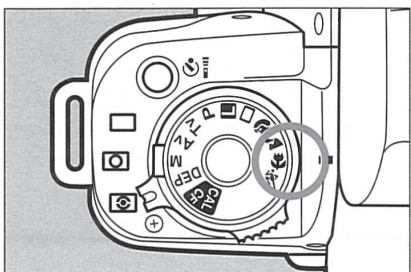
シャッター速度が点滅したときは、シャッタースピードが遅くなり手ぶれが起きやすくなっています。カメラの構え方とシャッターボタンの押し方に十分注意するか、三脚を使用して撮影することをおすすめします (三脚を使用してもシャッター速度の点滅は消えません)。

## 4. クローズアップマーク (🌸) で撮る



レンズに内蔵されているクローズアップ撮影用のマクロ機構を利用して、草花や昆虫を大きく撮るようなときに設定してください。

- 被写体が暗いときや逆光のとき、ストロボが自動的に発光します。



撮影モードダイヤルを🌸（クローズアップマーク）にします。

- 撮影の手順は全自動マークで撮る（24ページ）と同様です。ご参照ください。

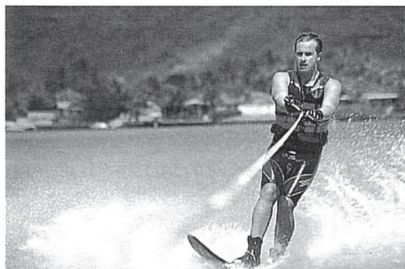


使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影しましょう。ズームレンズの場合は、望遠側になると被写体をさらに大きく撮影することができます。

本格的なクローズアップ撮影には別売のマクロレンズEF50mm F2.5 / EF100mm F2.8とマクロリングライトML-3の使用をおすすめします。

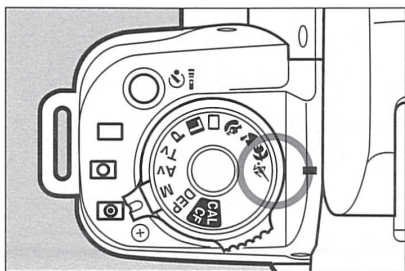


## 5. スポーツマーク (🏊) で撮る



スポーツや運動会などで、動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮るようなときに設定してください。

- シャッターボタンを押し続けると連続撮影になります。



撮影モードダイヤルを🏊（スポーツマーク）にします。

- 撮影の手順は全自動マークで撮る（24ページ）と同様です。ご参照ください。
- スポーツモードではピントが合っても合焦マーク（●）は点灯しません。



- フィルム感度 ISO400以上のフィルムを使うことをおすすめします。
- スポーツ撮影には200mm～300mm程度の望遠系のレンズをおすすめします。



シャッター速度が点滅したときは、シャッタースピードが遅くなり手ぶれが起きやすくなっています。カメラの構え方とシャッターボタンの押し方に十分注意するか、三脚を使用して撮影することをおすすめします（三脚を使用してもシャッター速度の点滅は消えません）。

# [Ⅲ] AFモードと測光方式

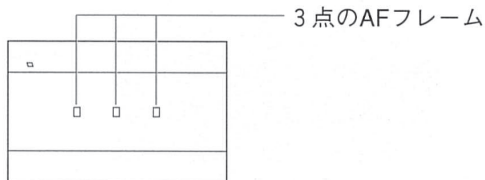
3つのAF (Auto Focus) フレームと視線入力AFが持つ特長と使い方および露出を計る測光方式について説明しています。

## 1. 3点AF (Auto Focus)と視線入力AF (👁) について

### 3点AFフレームについて

ファインダー内に設けられた3つのAFフレームが、広い視野でのオートフォーカスを可能にしました。ファインダー内の被写体の位置を気にすることなく自由な構図で撮影することができます。さらに、ピントの合ったAFフレームに連動した露出決定やストロボ調光が自動的に行われるので、被写体や構図に注意を集中して撮影することができます。(AIMシステム)

3点AFフレームは次のような場合にその威力を発揮します。



- 構図に集中して撮影することができます。



- 中抜け写真を撮る失敗が少なくなります。



- ファインダー内をはげしく動く被写体も的確に捉えます。

AFフレームは撮影状況に応じてカメラまかせで自動的に選択する自動選択AFと、次に説明する視線入力があります。また、撮影意図や構図に合わせて手で任意のAFフレームを選択しての撮影もできます。

## 視線入力AFとは

視線入力AFは、ファインダー内の3つのAFフレームのうち、目がどのAFフレームを見ているのかをカメラが瞬時に判断して、そこにある被写体にピントを合わせる機能です。カメラのピント合わせを、見たところにピントが合うという人の目が持っている働きに近づけた視線入力AFは、EOSを撮影する人の意志にダイレクトに反応するカメラにしました。カメラを縦に構えても横に構えても視線入力AFを使用することができます。視線入力AFを使用するときは、視線入力AFワンポイントガイドを参照してください（→43ページ）。

視線入力AFは次のような場合にその威力を発揮します。

- 撮りたいものに瞬時にピントが合います。
- 瞬時にAFフレームを切り換えることができます。



ピント合焦



ピント合焦

- 動いている被写体をファインダー内で目で追うことができます（AI SERVO・動体予測機能作動時）。



## 2. AFフレームの選択

AFフレームとは、ピントを合わせる枠のことをいいます。ここではその選択の方法について説明しています。選択方法には以下の3つがあります。

**自動選択AF：** 撮影状況に応じてカメラが自動的にAFフレームを選択してピント合わせを行います。

**手動選択AF：** 3つのAFフレームから任意のAFフレームを手動で選択します。

**視線入力AF：** 3つのAFフレームから任意のAFフレームを目で見て選択します。

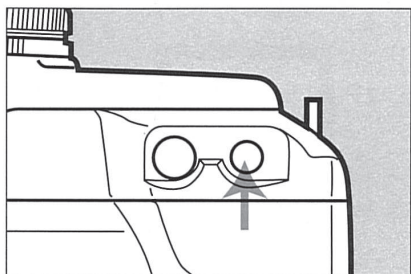


レンズのフォーカスモードスイッチを**M**にしておくで、AFモードダイアルの表示、設定にかかわらずマニュアルフォーカスになります、ご注意ください。

選択方法は次のようになります。

まず撮影モードダイヤルをクリエイティブゾーン（P. Tv. Av. M. DEP）にします。

（全自動及びイメージゾーンでは設定できません。）

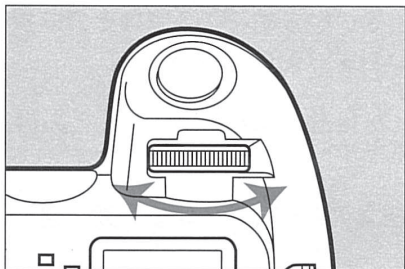


### 自動選択AF

1 AFフレーム選択ボタンを押します。

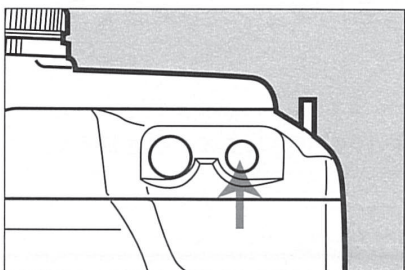
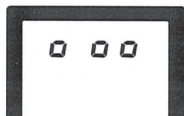
- 選択されているAFフレームがファインダー内で赤く点灯し、表示パネルでもAFマークが点灯します。
- AFフレーム選択ボタンから指をはなしても6秒間はタイマーが働いています。
- 全自動モードの時は、AFフレーム選択はできません。





2 全てのAFフレームが点灯するまでメイン電子ダイヤルを回します。

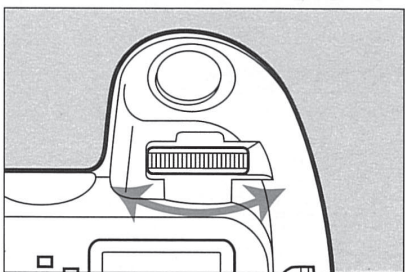
- シャッターボタンを半押しするか6秒経過すると設定は完了します。



#### 手動選択AF

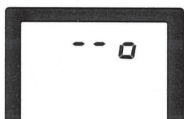
1 AFフレーム選択ボタンを押します。

- 選択されているAFフレームがファインダー内で赤く点灯し、表示パネルでもAFマークが点灯します。
- AFフレーム選択ボタンから指をはなしても6秒間はタイマーが働いています。

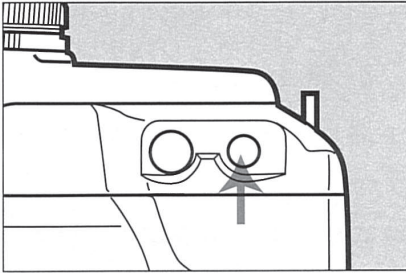


2 希望するAFフレームが点灯するまでメイン電子ダイヤルを回します。

- シャッターボタンを半押しするか6秒経過すると設定は完了します。

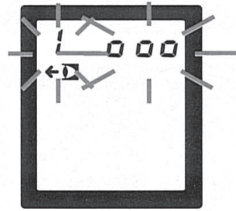
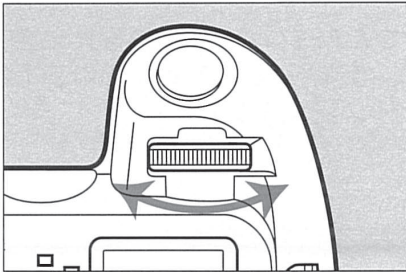


手動選択AFはイメージゾーンのモードでは使えません。



## 視線入力AF

- 1 AFフレーム選択ボタンを押します。
  - 選択されているAFフレームがファインダー内で赤く点滅し、表示パネルでもAFマークが点灯します。
  - AFフレーム選択ボタンから指をはなしても6秒間はタイマーが動いています。
- 2 全てのAFフレームおよび登録番号表示が点滅するまでメイン電子ダイヤルを回します。
  - シャッターボタンを半押しするか6秒経過すると設定は完了します。
  - 視線の登録がされている場合、登録番号の点滅は点灯となります。



正確な視線入力AFを行うためには自分の視線をカメラに登録（キャリブレーション）する必要があります。詳細は40ページ「6. 視線入力AFを使う」、46ページ「8. 視線入力AFで撮影する」を参照してください。  
登録をしていない状態でもカメラに入っているデータで視線入力AFはできますが、正確には作動しません。

### 3. 画面の端の被写体にピントを合わせる

3つのAFフレームに入らない画面の端の被写体にピントを合わせて撮影するときは次のようにします。この方法をフォーカスロック撮影といいます。

- フォーカスロック撮影はAFモードがONE SHOT AFに設定されているときに有効です (→37ページ)。

1 希望するAFフレームを選択します。  
(→33~37ページ)



2 選択したAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。



3 シャッターボタンを半押ししたまま構図を変えます。

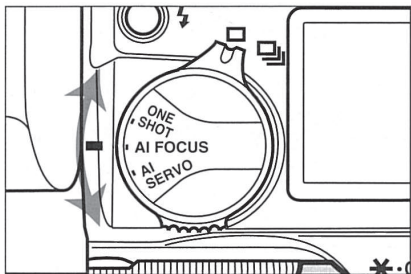
4 シャッターボタンを全押しして撮影します。



フォーカスロック撮影中に、ピントを合わせた被写体の明るさが変わると、その被写体が適正な露出にならないことがあります。測光方式については49ページ「9. 測光方式の変更」を参照してください。

## 4. AFモードの変更

AFモードは被写体に自動的にピントを合わせるオートフォーカスの作動状態のことをいいONE SHOT AF（ワンショット）／AI FOCUS AF（AIフォーカス）、AI SERVO AF（AIサーボ）の3種類があります。被写体の状況によって選択してください。



AFモードダイヤルを回して希望するAFモードを選択します。AFモードダイヤルにある記号とその機能の違いは次のとおりです。

### ONE SHOT AF

静止している被写体の撮影に適しているモードです。ピントが合わないとシャッターが切れないため、ピンぼけ写真を防ぐことができます。シャッターボタンを半押しするとAFが作動しピントがあったAFフレームが一瞬赤く光り、ファインダー内に合焦マーク（●）が点灯します。ピントが合うと同時に露出が決まります。



シャッターボタン半押しの状態を保つとピントと露出が固定されたままになり、ピントを合わせた後に構図を変えて撮影するフォーカスロック撮影ができます。



ファインダー内の合焦マークが点滅するときはシャッターが切れません。構図を変えて撮影するか39ページの「5. オートフォーカスできないとき」を参照してください。

### AI FOCUS AF

通常はONE SHOT AFになっており、ONE SHOT AFでとらえた被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAI SERVO AFに切り換わるモードです。

AFフレーム選択モードが自動選択AFに設定されているときは、はじめに中央のAFフレームで被写体をとらえれば、その後オートフォーカス中に被写体が中央のAFフレームを外れても周辺のAFフレームが被写体を確実にとらえている限りAI SERVO AFが機能します。



## AI SERVO AF

撮影距離が断続的に変わる被写体の撮影に適しているモードです。シャッターボタン半押しの状態を保っている間、被写体にピントを合わせ続けます。動体予測機能\*でカメラに向かってくる、あるいは遠ざかる被写体にもピントが合います。露出はシャッターが切れる直前に決まります。

\*被写体がほぼ等速度でカメラに近づいてくる、あるいは遠ざかっていく場合に、シャッターが切れる直前に正しいピントが得られるよう、その被写体の位置を予測してピントを合わせ続ける機能です。

### AI SERVO AF時のAFフレームとAFモードの関係

	AI Servo
自動選択AF	<ul style="list-style-type: none"><li>● はじめに、中央のAFフレームで被写体をとらえる。</li><li>● その後被写体が中央のAFフレームを外れても動体予測機能によりピントを合わせ続けることができる。</li></ul>
視線入力AF	<ul style="list-style-type: none"><li>● 視線サーボAFとなり、移動する被写体を視線（目）で追うだけで動体予測機能によりピントを合わせ続けることができる。(48ページ参照)</li></ul>
手動選択AF	<ul style="list-style-type: none"><li>● 選択したAFフレームでのみ動体予測機能によりピントを合わせ続けることができる。</li></ul>

AFフレーム選択モードが自動選択AFに設定されているときは、はじめに中央のAFフレームで被写体をとらえれば、その後オートフォーカス中に被写体が中央のAFフレームを外れても周辺のAFフレームが被写体を確実にとらえている限りAI SERVO AFが機能します。



- ピントがあってもファインダー内の合焦マークは点灯せず電子音もなりません。
- ファインダー内の合焦マークが点滅するときはピントが合っていません。
- フォーカスロック撮影（36ページ）はできません。

## 5. オートフォーカスできないとき

このカメラのAFシステムはほとんどの被写体にピントを合わせることができる非常に精度の高いものです。しかし次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（合焦マークが点滅する）ことがあります。

(a) コントラスト（明暗差）が極端に低い被写体。

例：青空、単色の平面など

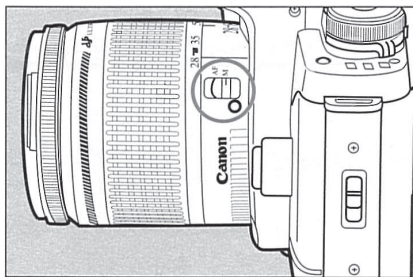
(b) 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体

例：反射光の強い車のボディ

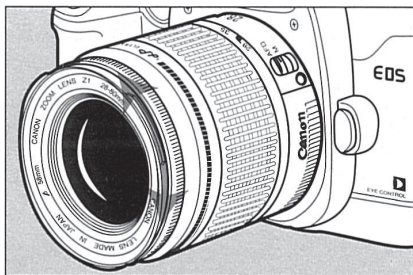
(c) 遠いところと近いところに写したいものが共存する被写体

例：おりの中の動物

これらの場合は、被写体とほぼ同じ距離にある別の被写体でフォーカスロックし、構図を決めて撮影するか、次の手順で手動でピントを合わせてください。



1 レンズのフォーカスモードスイッチをMにします。



2 ファインダー内の被写体をはっきり見えるまでレンズの手動フォーカスリングを操作します。



AFからMに切り換えたときは、被写体にピントが合うとピントを合わせたAFフレームが一度光り、合焦マークが点灯します。

## 6. 視線入力AFを使う



視線入力AFはファインダー内にある3つのAFフレームのうち、目がどのAFフレームを見ているのかをカメラが瞬時に判断して、そこにある被写体にピントを合わせます。目は瞳孔の大きさや、裸眼かコンタクトレンズ装着、眼鏡装着かなど、人によってその状態が異なります。視線入力AFを使用するには、ファインダー内を見ている視線の動きをカメラが正確に検知できるようにするため、自分の視線をカメラに登録（キャリブレーション）する必要があります。

### 視線を登録する（キャリブレーション）

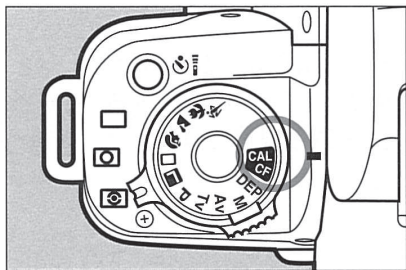
登録番号1～3までに3種類の異なった視線の状態を登録することができます。

例：1＝裸眼、2＝コンタクトレンズまたは眼鏡装着、3＝あなた以外の人

- 視線の登録はファインダーをのぞいたら目を離さずに一連の操作を行ってください。
- カメラを縦位置に構えて使用する場合は、同一の登録番号に横位置と縦位置による視線登録を行ってください。



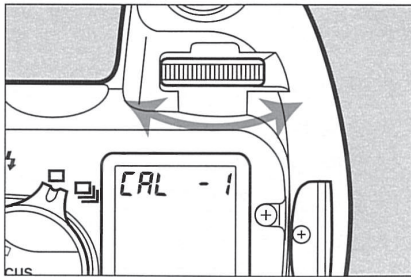
横位置のみの登録では縦位置での視線入力AFの精度が不十分な場合があるので縦位置でも登録を行ってください。



### <横位置での登録>

1 撮影モードダイヤルを **CAL** にします。

- 表示パネルとファインダー内に「CAL-」と登録番号が表示されます。数字が点滅すれば視線登録が未登録の番号、点灯すればすでに登録されている番号です。



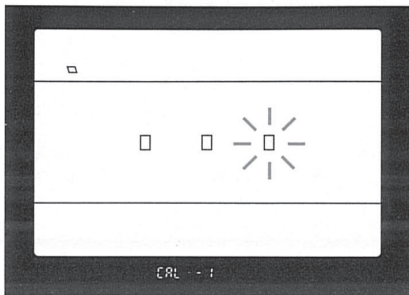
2 メイン電子ダイヤルを回して点滅する登録番号を選択します。

- 点滅している番号がない場合は45ページ「登録した視線の削除」を参照してください。

3 ファインダーをのぞきます。

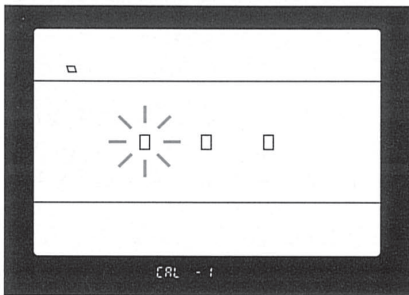
4 点滅している右側のAFフレームを注視しながらシャッターボタンを押します。

- 「ピピッ」という電子音がなりAFフレームの点滅が終わるまでの1～2秒間、右側のAFフレームを注視してください。
- ファンクションボタンで電子音が鳴らないように設定してあると、視線登録時の電子音は鳴りません(→82ページ)。

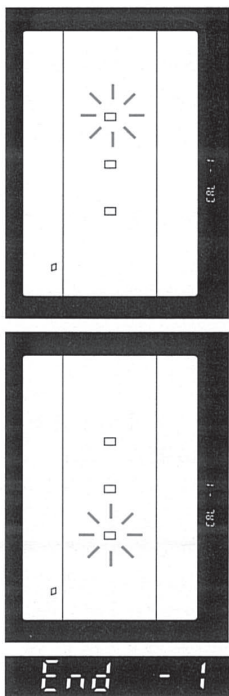


5 シャッターボタンから指をはなすと左側のAFフレームが点滅を始めます。点滅している左側のAFフレームを注視しながら再度シャッターボタンを押します。1～2秒すると電子音が「ピピッ」と鳴り登録が完了します。

- 登録が完了すると、点滅していた登録番号が点灯に変わり、ファインダー内および表示パネルに「End -」と表示されます。
- 登録操作を中断している間に、ファインダー内で赤く点灯しているAFフレームが消えたら、シャッターボタンを押して手順「3」からやり直してください。







### <縦位置での登録>

6 一度シャッターボタンを半押ししてカメラを縦に構えてシャッターボタンを押し、手順「1」～「5」の操作を行い、縦位置での視線を登録します。

横位置で登録した番号と同一の登録番号に縦位置の登録を行ってください。

- カメラを縦に構えるとき、グリップを上にしても下にしてもファインダー内では上のAFフレームから点滅を始めます。上側の測距ポイント、下側の測距ポイントの順で登録を行ってください。

7 メインダイヤルをCAL、CF以外のモードにセットして撮影してください。



- 電子音が「ピピピピピ…」と断続して鳴り表示パネルの表示が点滅するときは、再度シャッターボタンを押し手順「1」からやり直してください。
- 視線の登録（キャリブレーション）が完了すると、AFフレームの選択は自動的に視線入力AFに切り換わります。

### 視線入力の学習機能

- このカメラの視線登録には登録した視線のデータを蓄積する機能があります。同一の登録番号に撮影条件（外、屋外、室内、昼、夜、それぞれ縦、横位置の条件）が変わる度に繰り返し視線を登録することで、より多くのデータを学習し視線入力AFの精度が向上します。
- 同一の登録番号に別の人が登録することはさけてください。視線入力AFの精度が悪くなります。別の人が使うときは登録番号を変えるか、その番号の登録内容を消去してから登録してください。

# 7. 視線入力AFワンポイントガイド

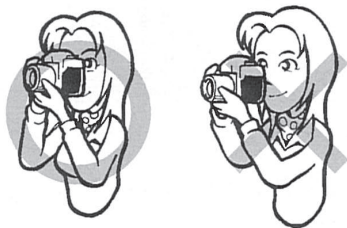
視線の登録がうまく行かなかったり、視線入力で希望するAFフレームがうまく選択できないときは次の点を確認してください。

## カメラを正しく構えていますか？

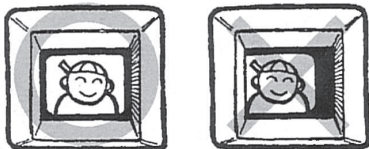
- カメラが動かないようにしっかり保持していますか？



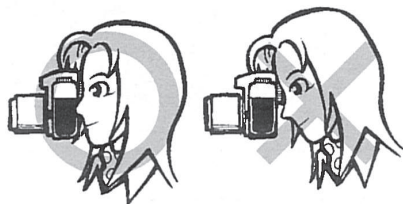
- 目をアイカップに触れるまで近づけてファインダーをのぞいていますか？



- ファインダー内の四隅が完全に見えるよう、ファインダーの真ん中に目を位置させていますか？



- ファインダーを上、下、左あるいは右斜め方向からのぞくことなく、目とファインダーが正対するよう構えていますか？



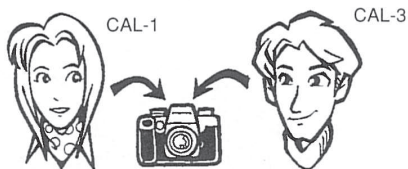
- カメラを斜めに構えていませんか？斜めに構えると誤差が生じてピントが合わないことがあります。





## 正しい状態で操作をしていますか？

- カメラの使用者が複数のとき、使用者ごとに登録番号を変えていますか  
複数の人が同じ番号に視線登録すると視線入力が入力が誤動作を起こします。そのようなときはすでに登録されている視線を削除し、改めて登録操作してください。
- ファインダーにアイカップが着いていますか？
- 目に太陽光が直接当たっていませんか？  
屋外では目に太陽光が当たらないようにして登録の操作をしてください。



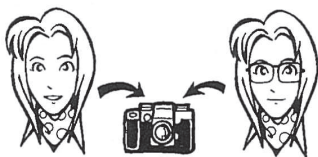
- 視線登録時に目を細めたり、まばたきしたりしていませんか？



- 髪の毛が目にかかっていませんか？



- AFフレームを見てからシャッターボタンを押していますか？
- 撮影時と同じ目の状態（眼鏡、コンタクトレンズ着用など）で視線を登録していますか？



- 眼鏡がずれて鼻眼鏡になっていませんか？

その他ミラーレンズサングラスなど特殊なコーティングが施されている眼鏡では視線登録できないことがあります。

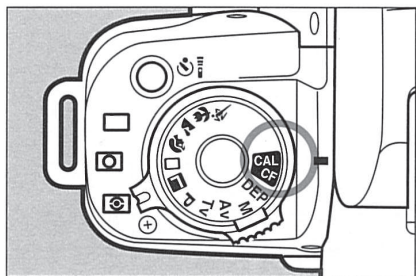


以上の点に留意しても視線入力できない場合があります、その場合は手動選択AFでご使用下さい。

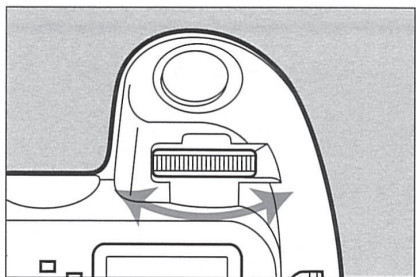


## 登録した視線の削除

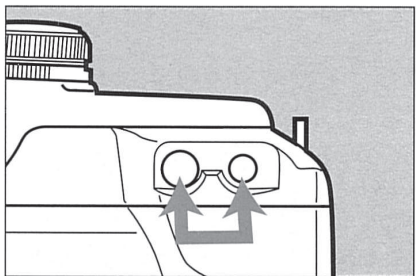
同じ登録番号に異なる視線の状態（例えば裸眼とコンタクトレンズ装着）を登録したり、複数の人の視線を登録すると視線入力AFの作動が不安定になったり、誤作動を起こすことがあります。そのようなときはすでに登録されている内容を消去して、改めて登録し直します。



- 1 撮影モードダイヤルを **CAL** にします。



- 2 メイン電子ダイヤルを回して登録内容を消去したい登録番号を選択します。



- 3 AEロックボタンとAFフレーム選択ボタンを同時に押します。
- ファインダー内と表示パネルの登録番号が点滅して登録内容が消去されたことを表示します。

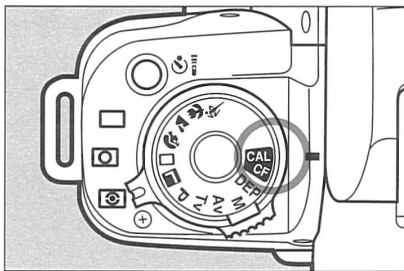


## 8. 視線入力AFで撮影する

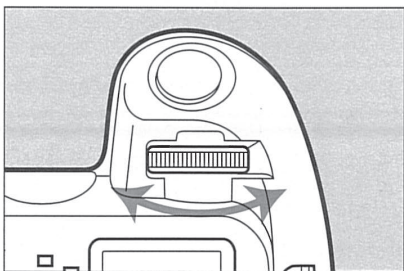


視線入力AFはファインダー内の任意のAFフレームを注視するだけで、そのAFフレームを選択することができます。

- 全自動（) モードでは視線入力を使用することはできません。

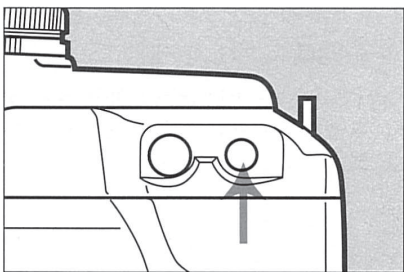


- 1 撮影モードダイヤルを **CAL** にします。




- 2 メイン電子ダイヤルを回して表示パネルに自分の視線登録番号を表示します。

- 視線が登録されている番号は点灯し、未登録の番号は点滅します。



- 3 撮影モードダイヤルで希望する撮影モードを選択します。

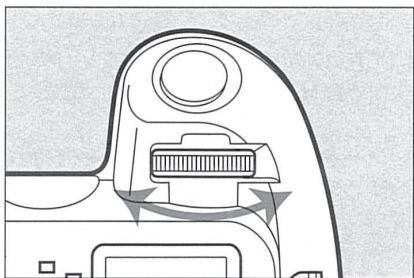
- 視線入力は全自動（) モード以外の全てのモードで使用できます。

- 4 AFフレーム選択ボタンを押します。


- 選択されているAFフレームがファインダー内で赤く点灯し、表示パネルでAFマークが点滅します。
- AFフレーム選択ボタンから指をはなしても6秒間はタイマーが働いています。

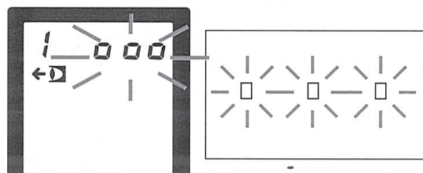


事前に自分の視線登録番号にセットできている場合は1～3を省略して4～6からはじめても作動可能です。



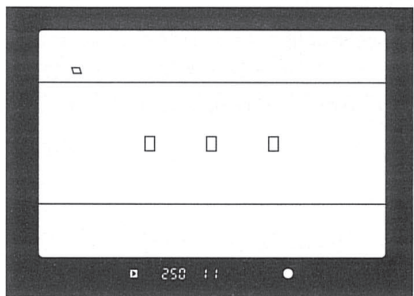
5 メイン電子ダイヤルを回し、ファインダー内の全てのAFフレームを点滅させます。

- 全てのAFフレームが点滅するとファインダー内と表示パネルに  (視線入力AF表示) が表示されます。
- 手順「2」で選択した視線登録番号も表示されます。
- シャッターボタンを半押しするか6秒経過すると視線入力AFで撮影できます。





6 ファインダーをのぞき任意のAFフレームを注視しながらシャッターボタンを半押しします。

- 注視したAFフレームが赤く点灯し、そのAFフレームでオートフォーカスします。



視線の登録 (キャリブレーション) を行った直後に撮影モードダイヤルを選択した場合、AFフレームの選択は自動的に視線入力AFに切り替わります。



注視したAFフレームが選択できなかった場合ファインダー内の  (視線マーク) が点滅し、自動選択AF (→33ページ) でAFフレームが選択されてピント合わせが行われます。  (視線マーク) は点滅を続けますがシャッターボタンを半押しすると視線入力AF機能は復帰します。



## 視線サーボAF

視線入力AFとAI SERVO AF（又はAI FOCUSのAI SERVO AF時）を併用すると、移動する被写体を視線で追うだけで連続してピントを合わせ続けることができます。これを視線サーボAFといいます。

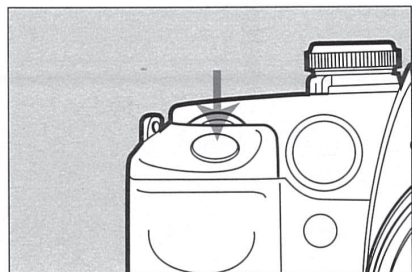
視線入力AFでとらえた被写体が移動を始めた場合、シャッターボタンの半押しを維持しながら、移動先にある別のAFフレームを目で追うだけで連続してその被写体にピントを合わせ続けます。

## 視線入力AFの解除

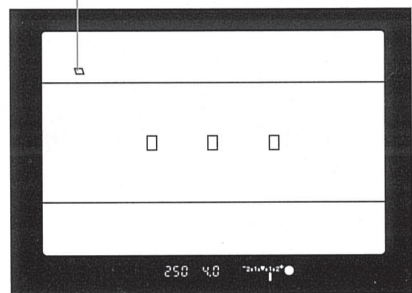
AFフレーム選択ボタンを押してメイン電子ダイヤルを操作するだけで自動選択AFあるいは手動選択AFに切り換わります。

## 視線入力でピントの範囲を確認する

視線入力AFが設定されている場合、ファインダー内の被写界深度確認マークを注視するだけで、絞りが設定されている数値まで絞り込まれて、ピントが合っている範囲を確認することができます。



被写界深度確認マーク



1 被写体にピントを合わせた、その後もシャッターボタン半押しを維持します。

- この機能は撮影モードダイヤルはクリエイティブゾーン、AFモードはONE SHOT AFのときに可能となります。

2 約6秒以内にファインダー内の被写界深度確認マークを注視します。

- 絞りが設定されている数値まで絞り込まれます。
- シャッターボタンから指をはなすと絞り込みは解除されます。
- 6秒以上経過した場合は改めてピントを合わせ直し、上記の操作を行ってください。

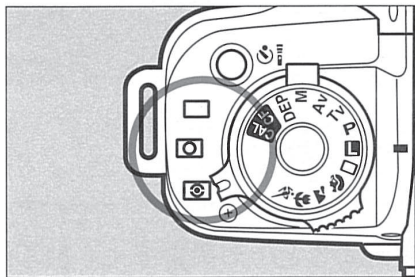


被写界深度確認中からそのままシャッターを押しこんで撮影できます。またスピードライト380EXとの組み合わせ時はカメラが自動的に絞りを開放にもどしてプリ発光を行い、再び絞り込んで撮影します。

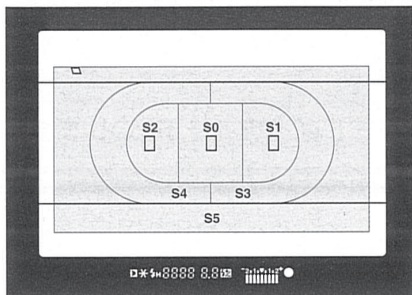
# 9. 測光方式の変更



測光方式には評価測光、部分測光、中央部重点平均測光の3つの方式があります。撮影状況や撮影目的に応じて使い分けてください。



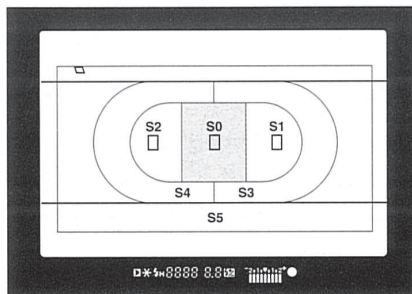
測光モードレバーを回して希望する測光モードを選択します。測光モードレバーにある記号とその機能の違いは次のとおりです。



## 評価測光

逆光撮影を含む一般の撮影に適しています。ファインダー内の主被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光などの要素を3つのAFフレームに連動してカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出値にします。

- マニュアルフォーカス時は常に中央のAFフレーム基準の評価測光になります。



## 部分測光

ファインダー中央部の約9.5%の範囲を測光します。逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。

- カスタム機能C08を併用するとAFフレームに連動した部分測光に変更することができます。任意に選択したAFフレームの周囲のみを部分測光します (→85ページ)。
- 部分測光の測光範囲は各測距点ほぼ左図のS1、S0、S2、の範囲となります。

## 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均的に測光します。

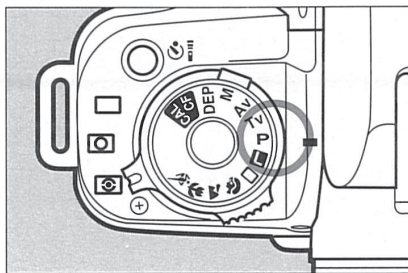


# 【Ⅳ】 撮影目的に合わせて撮る

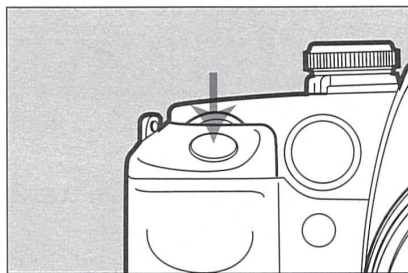
撮影モードダイヤルのクリエイティブゾーンの使い方を説明しています。クリエイティブゾーンではカメラの機能を撮影の状況に合わせて細かく設定することができます。被写体や撮影目的に合わせて使い分けてください。

## 1. プログラムAEで撮る(P)

全自動マーク（**P**）と同じように気軽に撮影するときの設定です。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動設定します。これをプログラムAEと呼びます。



1 撮影モードダイヤルを**P**にします。



2 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

- 表示パネルとファインダー内にシャッター速度と絞り数値が表示されます。



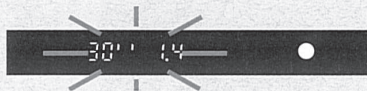


3 シャッター速度と絞り数値を確認して撮影します。

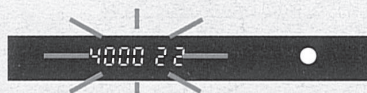
- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ適正露出です。



シャッター速度「30"」と絞り数値が点滅するときは被写体が暗すぎます。ストロボを使用して撮影してください。68ページの「4. 内蔵ストロボを使って撮る」を参照してください。



シャッター速度「4000」と絞り数値が点滅するときは被写体が明るすぎます。レンズを通る光の量を減らすND (Neutral Density) フィルター (別売) を付けて撮影してください。



## プログラムシフトについて

プログラムAEは自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ(プログラム)を、同じ露出のまま自由に変えることができます。これをプログラムシフトと呼びます。プログラムシフトはシャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度または絞り数値が出るまでメイン電子ダイヤルを回して行います。

- プログラムシフトは撮影後、自動的に解除され元のプログラムに戻ります。
- 内蔵ストロボやスピードライトを使用するとプログラムシフトできません。

## 2. シャッター速度を決めて撮る(Tv)



速いシャッター速度 (1/2000秒)



遅いシャッター速度 (1/30秒)

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。

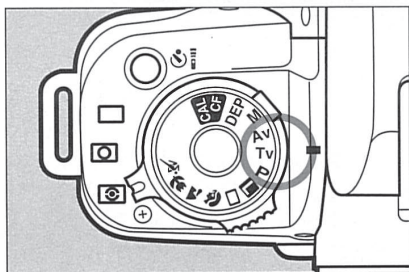
シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮ることができます。

シャッター速度を遅くすると流動感を表現することができます。

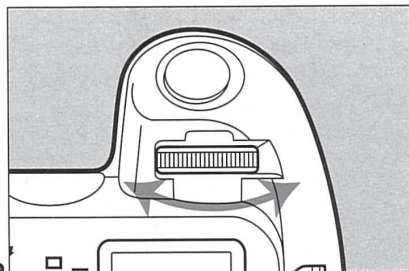


シャッター速度を1/15秒に設定すると、テレビ画面に映っているものをきれいに写すことができます。

- テレビ画面を写すときはカメラが動かないよう三脚を利用してください。

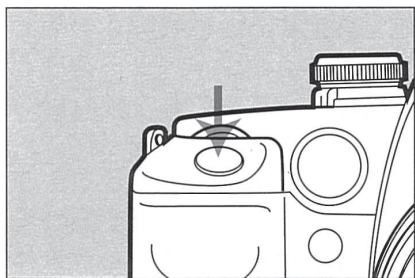


1 撮影モードダイヤルをTvにします。



2 メイン電子ダイヤルを回して希望するシャッター速度を設定します。





3 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

- 表示パネルとファインダー内にシャッター速度と絞り数値が表示されます。



4 絞り数値を確認して撮影します。

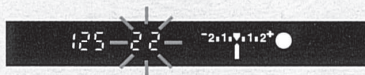
- 絞り数値が点灯していれば適正露出です。



- 使用しているレンズの一番小さな絞り数値（最大口径絞り、開放絞り）が点滅しているときは被写体が暗すぎる（低輝度）場合で露出アンダーになります。この場合は、点滅が止まるまでメイン電子ダイヤルでシャッター速度を遅くしてください。



- 使用レンズの一番大きな絞り数値（最小口径絞り）が点滅しているときは被写体が明るすぎる（高輝度）場合で露出オーバーになります。この場合は、点滅が止まるまでメイン電子ダイヤルでシャッター速度を速くしてください。



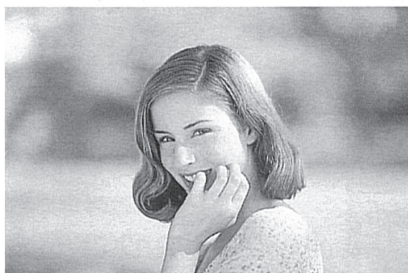
### シャッター速度の表示

シャッター速度は1/2段おきに変ります。4000から2までは分数の分母を表しています。例えば125は1/125秒を表しています。また0"7は0.7秒を表し、15"は15秒を表しています。

4000 3000 2000 1500 1000 750 500 350 250 180 125 90  
60 45 30 20 15 10 8 6 4 3 2 0"7 1" 1"5 2" 3" 4" 6"  
8" 10" 15" 20" 30"



### 3. 絞り数値を決めて撮る(Av)



小さい絞り数値 (F2.0)

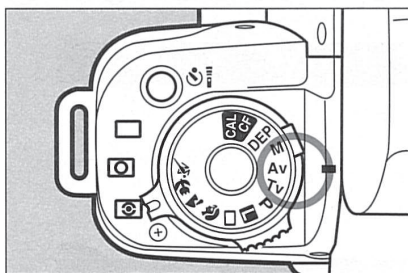


大きい絞り数値 (F8.0)

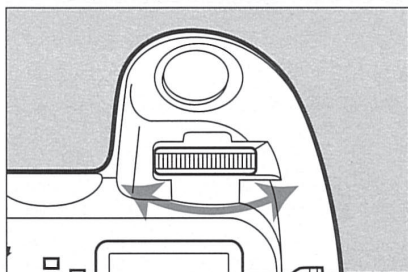
絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。

絞り数値を小さくすると、背景をぼかした美しいポートレート写真が撮れます。絞り数値を小さくするほど背景はぼけます。

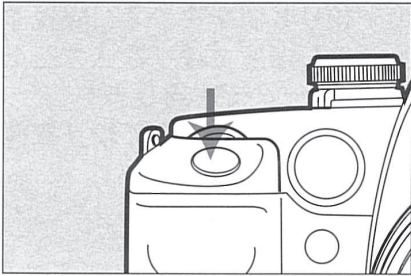
絞り数値を大きくすると、奥行きのある風景などは手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど鮮明に写る範囲が深くなります。



- 1 撮影モードダイヤルを **Av** にします。



- 2 メイン電子ダイヤルを回して希望する絞り数値を設定します。



### 3 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

- 表示パネルとファインダー内にシャッター速度と絞り数値が表示されます。

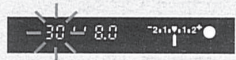


### 4 シャッター速度を確認して撮影します。

- シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。



- シャッター速度の30"が点滅しているときは被写体が暗すぎる（低輝度）場合で露出アンダーになります。この場合は、点滅が止まるまでメイン電子ダイヤルを回して絞り数値を小さくしてください。



- シャッター速度の4000が点滅しているときは被写体が明るすぎる（高輝度）場合で露出オーバーになります。この場合は、点滅が止まるまでメイン電子ダイヤルを回して絞り数値を大きくしてください。



### 絞り数値の表示

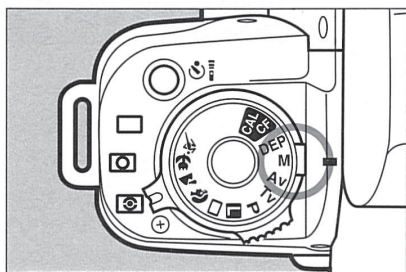
絞り数値は1/2段おきに変わります。数字が大きくなるほどレンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値の範囲はレンズによって異なります。

1.0 1.2 1.4 1.8 2.0 2.5 2.8 3.5 4.0 4.5 5.6 6.7 8.0 9.5 11  
13 16 19 22 27 32 38 45 54 64 76 91

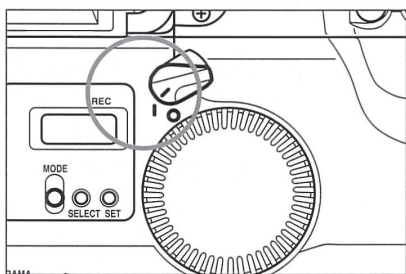
- カメラにレンズがついていないときは「00」です。

## 4. 自由に露出を決めて撮る (M)

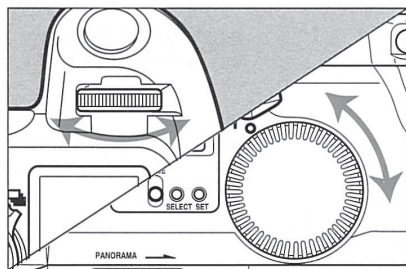
カメラまかせでなく自分でシャッター速度や絞り数値を決めて、表現を工夫した写真を撮ることができます。シャッター速度と絞り数値の適正な組み合わせは、露出レベル目盛と露出レベルマークで確認します。メイン電子ダイヤルでシャッター速度を、サブ電子ダイヤルで絞り数値を設定します。



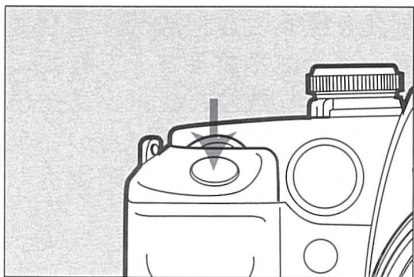
- 1 撮影モードダイヤルを **M** にします。



- 2 サブ電子ダイヤルスイッチを **M** にします。

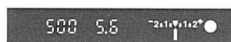


- 3 表示パネルまたはファインダー内表示を見ながら、メイン電子ダイヤルでシャッター速度を、サブ電子ダイヤルで絞り数値を設定します。



4 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

- 表示パネルおよびファインダー内の露出レベルマークで露出を確認します。



適正露出      -2.1.0.1.2+  
                          ■

露出オーバー      -2.1.0.1.2+  
                                  ■

露出アンダー      -2.1.0.1.2+  
                          ■

5 露出レベルマークに従って露出を調整します。

適正露出： 露出を決めるときの基準です。

露出オーバー： シャッター速度を速くするか、絞り数値を大きくして調整します。

露出アンダー： シャッター速度を遅くするか、絞り数値を小さくして調整します。

- 露出レベルマークが+2あるいは-2で点滅しているときは、露出が+2あるいは-2を越えていることを示しています。



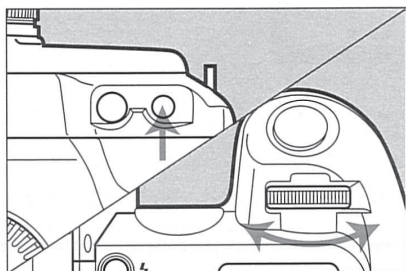
6 撮影します。



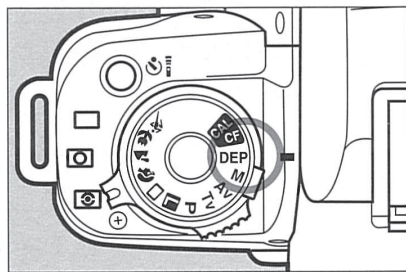
# 5. ピントの合う範囲を決めて撮る (DEP)

たくさんの人で記念写真を撮ったり風景写真を撮るとき、鮮明に写したい範囲を指定して撮影することができます。近景から遠景までを鮮明に写すのに最適なピント位置とそのために必要な絞り数値、シャッター速度をカメラが自動的に設定します。これを深度優先AE (DEP) といいます。任意のAFフレームを選択して行う方法とAFフレームを自動選択で行う方法、視線入力AFで行う方法とがあります。

## 選択したAFフレームによる深度優先AE撮影



1 AFフレームを選択します。



2 撮影モードダイヤルを DEP にします。



3 選択したAFフレームを手前の被写体の1点目 (1) に合わせ、シャッターボタンを押しします。

- ファインダー内に合焦マークが点灯し、ファインダー内と表示パネルに dEP 1 (dEP 1) と表示されます。





4 同じAFフレームを奥の被写体の2点目(2)に合わせ、シャッターボタンを押します。

- ファインダー内に合焦マークが点灯し、ファインダー内と表示パネルにdEP 2 (dEP 2)と表示されます。
- 2点目、1点目の順に操作しても同じ効果が得られます。



5 構図を決めてシャッターボタンを半押し、シャッター速度と絞り数値を確認します。

- シャッターボタンから指を離すと表示はdEP (dEP)と絞り数値になります。
- 露出はシャッターが切れる直前に決まります。

6 さらにシャッターボタンを全押しして撮影します。

## 自動選択AFフレームによる深度優先AE撮影

自動選択AFフレームによる深度優先AE撮影は、中央のAFフレームのみによるピント合わせになります。基本的な操作手順や注意事項は「選択したAFフレームによる深度優先AE撮影」と同じです。

## 視線入力AFによる深度優先AE撮影

構図を大きく変えずに深度優先AE撮影するときは視線入力AFを併用します。より簡単な深度優先AF撮影が可能です。1点目のピント合わせおよび2点目のピント合わせを視線入力AFで行います。露出は3回目にシャッターボタン半押ししたときに注視するAFフレームを中心とした測光\*できまります。もしそのときAFフレームを注視していなかった場合は中央のAFフレームで評価測光します。その他の基本的な操作手順や注意事項は「選択したAFフレームによる深度優先AE撮影」と同じです。

\*測光は測光レバーにて設定したモードで決定され、部分測光が選択されている時はカスタム機能C08を併用すると、AFフレームに連動した部分測光を行うことができます(→85ページ)。

## IV 撮影目的に合わせて撮る



- 絞り数値が点減するときは露出は合っていますが、希望したピントの深さが得られません。レンズを広角にするか、被写体から離れて手順「3」～「5」をやりなおしてください。
- シャッター速度の「30"」と使用レンズの一番小さな絞り数値（最大口径絞り）が点減するときは露出アンダーで深度優先AE撮影できません。
- シャッター速度の「4000」と使用レンズの一番大きな絞り数値（最小口径絞り）が点減するときは露出オーバーです。レンズを通る光の量を減らすNDフィルター（別売）をつけて撮影してください。
- ズームレンズを使用しているときは、撮影が終わるまでズーム操作をしないでください。
- 深度優先AE撮影操作中にメイン電子ダイヤルでAFフレームの変更を行うと、一度設定された深度優先AE撮影のためのデータは解除されます。
- レンズのフォーカスモードスイッチがMになっていると深度優先AE撮影できません。自動的にプログラムモードとなります。
- 深度優先AE撮影とストロボ撮影を併用することはできません。併用した場合はプログラムAE撮影でのストロボ使用と同じ結果になります。
- ピント合わせ範囲を設定できるレンズ（EF 300mm F2.8Lなど）を使用して深度優先AE撮影するときは、レンズのゾーン切り換えスイッチを「至近～∞」に設定してください。
- 手ぶれを起こす恐れがある遅いシャッター速度が設定された場合は、三脚を使用して撮影することをおすすめします。
- 深度優先AE撮影を途中で解除するときは撮影モードダイヤルを **DEP** 以外に設定します。



- 被写界深度を深くしたいときは広角レンズをお使いになることをおすすめします。
- 1点目と2点目のピント合わせを同一の被写体の同じ部分で行うと、ピントが合う範囲が浅くなります。この方法を応用すると、人物撮影などで人物の前景および背景をぼかした写真を撮ることができます。望遠レンズを使用するというそう効果的です。



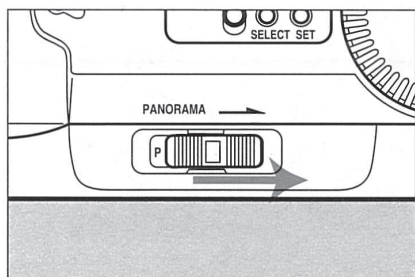
# [V] 色々な機能を使ってみる

写真表現の幅を広げたり、色々な撮影状況に細かく対応するため機能について説明しています。

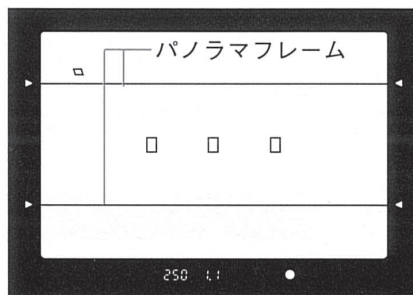
## 1. パノラマ写真を撮る

パノラマ・標準サイズ切り換えレバーを操作して、いつでも標準サイズの写真とパノラマサイズ（パノラマモード）の写真と切り換えて撮ることができます。どの撮影モードでもパノラマ撮影できます。

- このカメラのパノラマ写真とは、フィルムの上下の部分を光りが当たらないようにカバーして約13 × 36mm（横長）の写真を取り、プリントするときにパノラマサイズ（89 × 254mm）に仕上げた写真のことです。



- 1 パノラマ・標準サイズ切り換えレバーをパノラマ側にスライドします。



- 2 パノラマフレーム内で構図を決めて、撮影します。

- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内のパノラマフレーム端にオレンジ色パノラマ撮影表示が付きま

パノラマ撮影表示

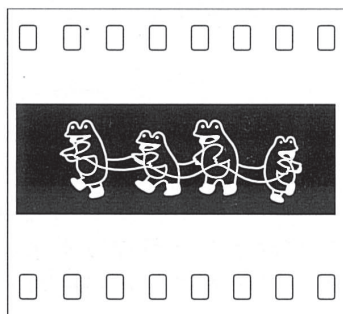


## Ⅳ 色々な機能を使ってみる

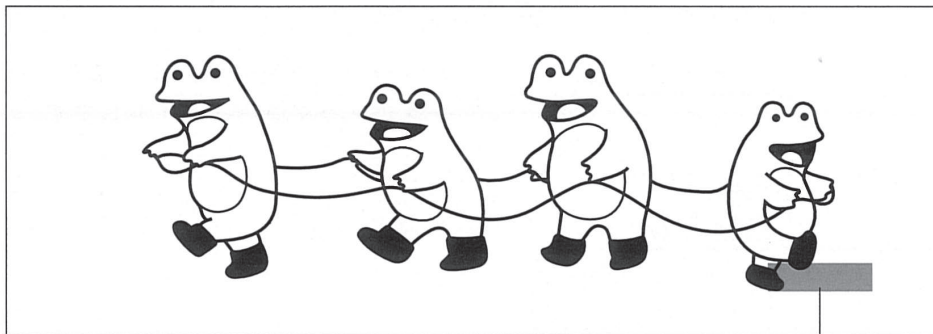
### パノラマ撮影したフィルムとプリントについて

#### フィルム上の撮影範囲

パノラマ撮影するとフィルム上では、図のように上下がカットされた形で撮影されます。撮影枚数は変わりません。



#### パノラマプリント

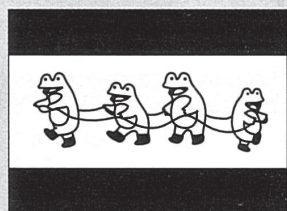


日付／時刻はパノラマサイズの写真にも画面右下に写し込まれます。

写し込み位置



パノラマ撮影したフィルムを通常のプリントにすると、写真の上下が黒くなります。

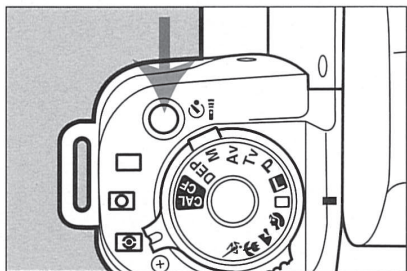





- パノラマサイズで撮影したフィルムの現像・プリントは通常の現像・プリント処理とは異なります。フィルムをお店に出すときは、パノラマサイズで撮影したことを、受け付け時に必ずお伝えください。
- カメラのパノラマ機構が破損しますので、パノラマアダプターPA-1000を取り付けないでください。

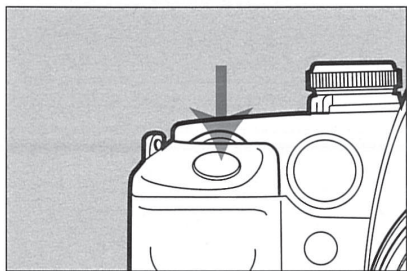
## 2. セルフタイマーを利用して撮る

セルフタイマーはイメージゾーンでもクリエイティブゾーンでも使えます。セルフタイマー撮影をするときは三脚をお使いください。



セルフタイマーリモコン

- 1 セルフタイマーボタンを押します。
  - 表示パネルに (セルフタイマー/リモコン表示) が表示されます。
  - もう一度セルフタイマーボタンを押すと、セルフタイマーは解除されます。
  - セルフタイマーボタンを押してから約4分間カメラを放置すると、セルフタイマー機能は自動的に解除されます。

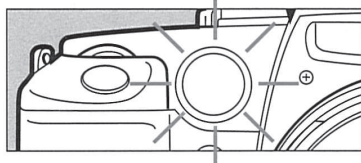


- 2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、シャッター速度と絞り数値を確認します。
- 3 ファインダーをのぞいたままさらにシャッターボタンを押して撮影します。

電子音が次のように鳴り、10秒後にシャッターが切れます。

ゆっくり (2回/秒)	ピッ、ピッ	8秒間
早く (8回/秒)	ピピピピ	2秒間

- AF補助光も電子音と同じ間隔で光ります。

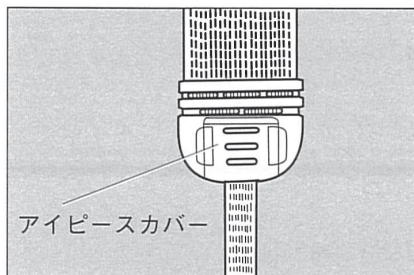


- セルフタイマー作動中は、表示パネルにシャッターが切れるまでの秒数が減算で表示されます。
- セルフタイマーを利用してストロボ撮影するときに、赤目緩和機能 (→70ページ) が設定されていると、シャッターが切れる2秒前に赤目緩和ランプがつかます。



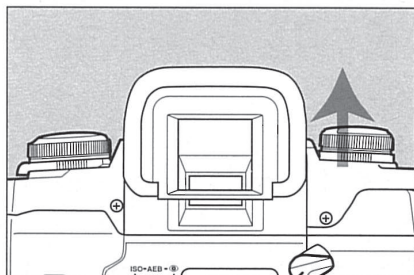


- セルフタイマー作動中はワイヤレスリモコンも使用できます。
- 視線入力AFでセルフタイマー撮影するときはファインダーをのぞいたままシャッターを切ってください。
- ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すとファインダーから入った光によって露出が狂うことがあります。そのようなときはアイカップを外して、ストラップについているアイピースカバーを接眼部に取り付けてからシャッターボタンを押してください。
- カメラの前に立ってシャッターボタンを押すと、ピンボケ写真の原因となることがあります。
- セルフタイマーの作動を途中で解除するときは、その時点でもう一度セルフタイマーボタンを押してください。

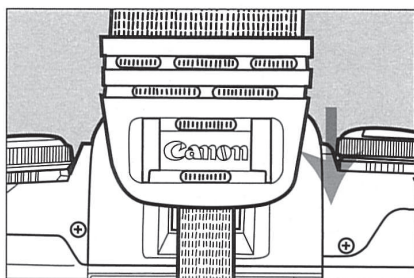


## アイピースカバーの使い方

アイピースカバーはストラップのEOSマーク側のプラスチック部分についています。



1 アイカップを取り外します。



2 アイピースカバーを接眼部に差し込みます。



### 3. 日付／時刻を入れて撮る

このカメラには2019年までのオートカレンダーが組み込まれているクォーツデートがついています。撮影と同時に日付や時刻を写真に写し込むことができます。デート表示パネルには「年月日」が表示されています。そのまま撮影すると写真に日付が写し込まれます。

日付／時刻の写し込みは全自動およびイメージゾーン、クリエイティブゾーン、パノラマのどの撮影でもできます。

表示切り換えボタン (MODE) を押すと写真に写し込まれる表示が次のように変わります。

<年月日>表示      '95 <sup>M</sup> 9 20      (1995年9月20日)

↓  
<日時分>表示      20 16:45      (20日16時45分)

↓  
<ハイフン>表示      - - - -      (写し込み無し)

↓  
<月日年>表示      <sup>M</sup> 9 20 '95      (9月20日1995年)

↓  
<日月年>表示      20 <sup>M</sup> 9 '95      (20日9月1995年)

- Mは「月」を表します。
- - は写し込みを確認するマークです。シャッターを切ると点滅して日付／時刻の写し込みを知らせます。



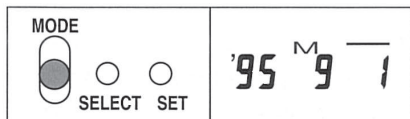
#### 日付／時刻の写し込みをしないとき

日付や時刻の写し込みをしないときは、表示切り換えボタンを押してクォーツデート表示パネルに「- - - -」を表示させます。

- 日付は表示パネルの表示と異なり、写真のように写し込まれます。

## 日付／時刻を変更する

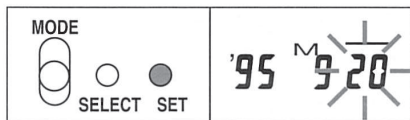
日付や時刻を変更するときは次のようにします。



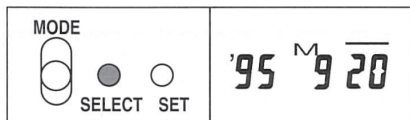
- 1 表示切り換えボタン (MODE) を押して、クオーツデート表示パネルに変更する日付 (時刻) を表示します。



- 2 修正位置選択ボタン (SELECT) を押して修正する数字を点滅させます。



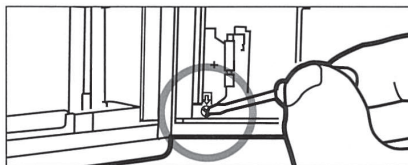
- 3 数値セットボタン (SET) を押して正しい数字をセットします。



- 4 点滅している数字がなくなるまで、修正位置選択ボタン (SELECT) を押します。点滅している数字がなくなれば、日付 (時刻) のセットは完了します。

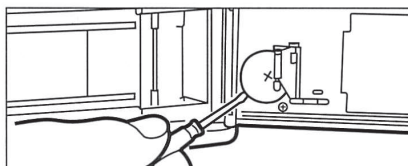
## クオーツデート用電池の交換

クオーツデート表示パネルが薄くなったら電池を交換してください。電池の寿命は約3年です。クオーツデート用の電池はリチウム電池CR2025、1個です。



- 1 背ぶたを開け、図に示すねじをゆるめ電池室のふたを取り外します。

- 2 電池を取り出します。



- 3 新しい電池の十側を手前にして入れ、電池室のふたを取り付けます。

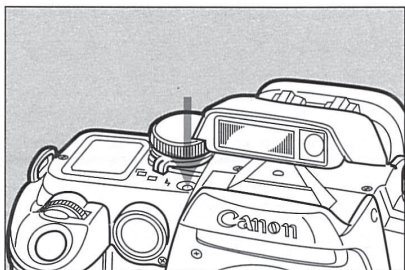
- 4 日付と時刻をセットしなおします。

## 4. 内蔵ストロボを使って撮る



クリエイティブゾーンでは、いつでも内蔵ストロボを利用したストロボ撮影ができます。被写体に強い陰影があるときや、人の目にキャッチライトを入れた写真を撮りたいときなどに利用するとよいでしょう。内蔵ストロボを利用すると被写体も背景も自然な感じに撮ることができます。


- ストロボ撮影のときはシャッター速度が1/125秒以下になります。

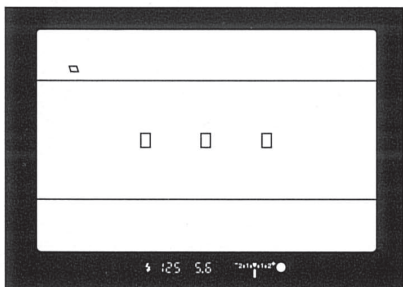


1 内蔵ストロボボタンを押しストロボを上げます。

- ストロボを収納するときはストロボを手で押し下げます。

2 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

3 ファインダー内に  が点灯しているのを確認して撮影します。





- レンズEF28 - 105mm F3.5 - 5.6 USMの最至近距離（1 m以内）でストロボ撮影すると画面の一部が欠け（ケラレ）て暗い写真になります。ストロボ撮影は被写体から1 m以上離れてください。
- レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がケラれてしまいます。内蔵ストロボを使用するときは必ずレンズからフードを外してください。
- 内蔵ストロボと外付けストロボを一緒に使用することはできません。
- アクセサリーシューに専用ストロボあるいはアクセサリーシューカバーを取り付けると内蔵ストロボは作動しません。
- 外付けストロボを使用するときは、内蔵ストロボを収納してから取り付けてください。
- 次のレンズを使用すると内蔵ストロボの光がけられることがあります。これらのレンズでストロボを使用するときは外付けの専用ストロボをおすすめします。
  - ・ EF20 - 35mm F2.8L、EF28 - 70mm F2.8Lなどの大口径レンズ
  - ・ EF300mm F2.8L、EF600mm F4Lなどの超望遠レンズ
- イメージセレクトモードで外付けストロボを使用すると、プログラムモードと同様に常時発光します。
- 内蔵ストロボ照射角の広角側限界は、焦点距離28mmまでです。28mm未満の広角レンズを使用すると、できあがった写真の周囲が暗くなります。

### 赤目緩和機能の設定

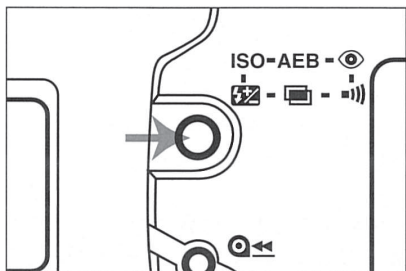
夜や暗い室内などで人物をストロボ撮影したときに目が赤く写ることがあります。これはストロボの光が人物の目の中で反射して起こる現象で「赤目現象」といいます。

赤目緩和機能をセットするとストロボ撮影で赤目現象が出やすいとき、赤目緩和機能がはたらいて自動的に赤目緩和ランプが付き、写る人の瞳を小さくして赤目現象を出にくくします。

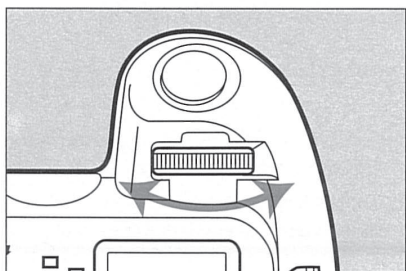
- 赤目緩和機能はどの撮影モードでも設定することができます。
- 赤目緩和ランプはシャッターボタンを半押ししている間点灯しています。効果的な赤目緩和のために、約2秒間の赤目緩和ランプ点灯表示が消えてからシャッターボタンを押し込んでください。
- シャッターボタンを半押しすると、表示パネルとファインダー内の赤目緩和ランプ点灯表示が行なわれて赤目緩和ランプが点灯していることを知らせます。



## V 色々な機能を使ってみる



- 1 ファンクションボタンを押して表示パネルに👁️（赤目マーク）を表示します。



- 2 メイン電子ダイヤルを操作して表示パネルに「1」を表示します。
  - 解除するときには「0」を表示します。



- 3 シャッターボタンを半押しします。
  - 表示パネルに👁️（赤目マーク）が表示されたままになります。



- 赤目緩和効果の度合には個人差があります。
- この機能は、写される人がランプを注視していないと効果がありませんので、写される人がランプを見るように声をかけてください。

赤目緩和のためには次のことが効果的です。

- 室内は明るくする
- 写したい人に近づく
- 赤目緩和ランプを見てもらうように声をかける

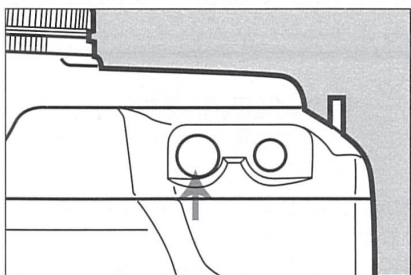
# 5. AEロックで撮る

クリエイティブゾーンでは、選択したAFフレームで露出とピントを別々に決めることができます。露出値を決めた後で構図を変える必要がある撮影にご利用ください。これをAEロック撮影といいます。逆光下での撮影などに有効です。

- AFフレームの選択と測光方式の組み合わせによるAEロックの効果についてはP.93を参照してください。



- 1 露出を合わせたい被写体にピントを合わせます。



- 2 AEロックボタン（\*）を押します。

- ファインダー内にAEロック表示（\*）が表示され、露出値が固定（AEロック）されます。AEロックボタンから指を離してもタイマーの働きで4秒間は表示されています。



- 3 目的の被写体にピントを合わせて構図を決め直し、撮影します。

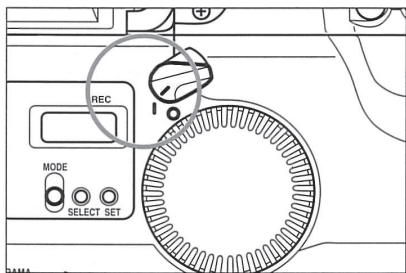
- AEロックボタンを押し直すたびにそのときの露出値をAEロックします
- AEロック表示（\*）が表示されてから4秒間経過するか撮影モードダイヤルを操作するとAEロックは解除されます。



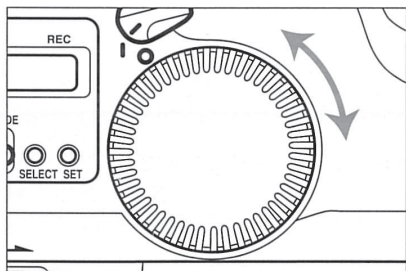
ONE SHOT AFおよびAI FOCUS AF（AI SERVO AF時を除く）の場合、シャッターボタンを半押しして被写体にピントが合った時点で自動的にAEロックされます。

## 6. 露出の補正方法

撮影時の露出値を意図的に変えることを露出補正といいます。サブ電子ダイヤルを操作するだけでファインダーをのぞいたまま補正することができます。補正量は1/2段ステップで+2段から-2段の範囲です。



- 1 サブ電子ダイヤルスイッチを (I) にします。
- 2 被写体にピントを合わせ露出表示を確認します。



- 3 露出表示を見ながら、サブ電子ダイヤルを回して希望する補正量を設定します。


-2.1.0.1.2+

A horizontal scale with tick marks and labels: -2, -1, 0, 1, 2+. A small black square marker is positioned directly under the '0' label. A double-headed arrow is drawn below the scale, spanning from approximately -1.5 to +1.5.

- 表示パネルとファインダー内に補正量が表示されます。+はオーバー側への補正、-はアンダー側への補正です。

- 4 撮影します。



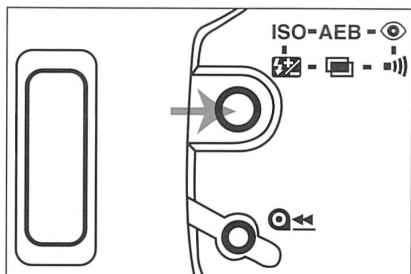
- 露出補正を解除するときは手順「2」「3」に従って補正量を「0」に戻しサブ電子ダイヤルを○にします。
- 設定した補正量は撮影モードダイヤルを  にしても解除されません。




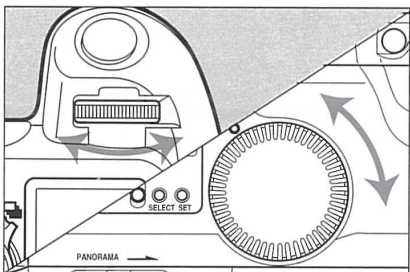
- サブ電子ダイヤルの操作はシャッターボタン半押し中かシャッターボタン半押し後の4秒タイマー作動中のみ有効です。
- 補正量を設定した後、サブ電子ダイヤルスイッチを○にすると、サブ電子ダイヤルが不用意に動いて補正量が狂うのを防ぐことができます。

# 7. ストロボ調光補正

内蔵ストロボおよびEOS専用スピードライトの自動調光レベルを補正することができます。補正量は1/2段ステップで+2段から-2段の範囲です。

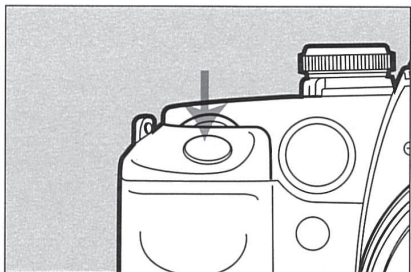


- 1 ファンクションボタンを押して表示パネルに  を表示します。



- 2 メイン電子ダイヤルまたはサブ電子ダイヤルを回して希望する補正量を設定します。

- 表示パネルに補正量が表示されます。+はオーバー側への補正、-はアンダー側への補正です。



- 3 シャッターボタンを半押しします。

- 表示パネルに  が表示されたままになります。





ストロボ調光補正と露出補正を併用することにより、主被写体と背景の露出を独立して任意にコントロールできます。



## V 色々な機能を使ってみる



- 調光補正を解除するときは手順「1」「2」に従って補正量を「0」に戻します。
- 設定した調光補正量は撮影モードダイヤルを  にしても解除されません。
- ファンクションボタンを押して表示パネルに  を表示し直すと調光補正量を確認することができます。

### ストロボ調光補正できるスピードライト

EOS専用スピードライトはカメラで調光補正することができます。ただし、540EZと430EZはストロボ単体で調光補正できません。この2機種はカメラとスピードライトの両方で調光補正した場合、スピードライト側の調光補正量を優先します。

## 8. AEB (自動露出ずらし) で撮る

設定した露出補正量の幅に従ってカメラが自動的に露出を変えながら3コマの写真を撮影することができます。これをAEB (Auto Exposure Bracketing)といいます。適正露出 (露出補正が設定してあればその補正值) を中心に1/2段ステップで+2段から-2段の範囲でAEB撮影の補正量を設定することができます。設定してあるフィルム巻き上げモード (80ページ「フィルム巻き上げモードの変更」を参照) で適正露出、露出アンダー、露出オーバーの順で撮影します。

微妙な光線状態を表現したり、スライド用カラーフィルム (リバーサルフィルム) を使用した撮影には特に有効です。



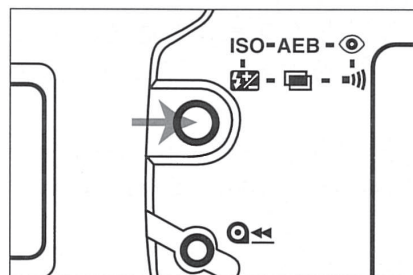
適正露出



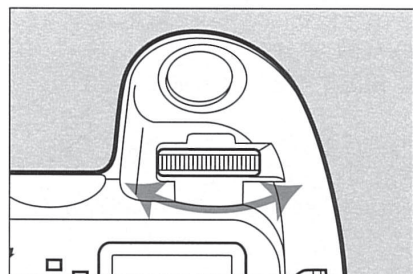
露出アンダー (-1/2)



露出オーバー (+1/2)



- 1 ファンクションボタンを押して表示パネルに**AEB**を表示します。

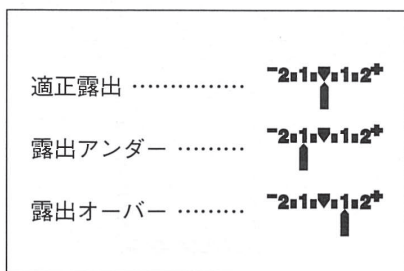
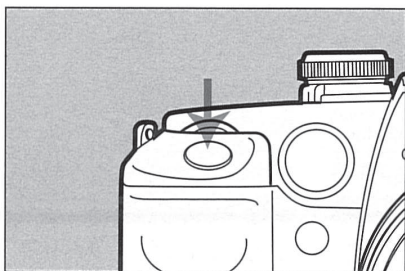


- 2 メイン電子ダイヤルを回して希望する補正量を設定します。

- 表示パネルに補正量が表示されます。例えば「0.5」を設定すると適正/露出アンダー (-0.5) /露出オーバー (+0.5) の順で露出を変えます。

## V 色々な機能を使ってみる

AEBセットのとき、露出表示の範囲を越える露出補正を行うと、表示は右図のようになりますが、AEB撮影と露出補正は正常に作動します。



- 2.1 0.1.2\* ±1 段のAEBをセットした状態
  - 2.1 0.1.2\* -1 段露出補正を行った状態
  - 2.1 0.1.2\* -1.5段露出補正を行った状態
  - 2.1 0.1.2\* -2 段露出補正を行った状態
- 但し、Mの時は以下ようになる。
- 2.1 0.1.2\* 中心の露出が適正露出に対して2段アンダーの場合
  - 2.1 0.1.2\* 中心の露出が適正露出に対して2段アンダーを越える場合

3 シャッターボタンを半押しします。

- 表示パネルに AEB と補正量が表示されたままになります。

4 設定してあるフィルム巻き上げモード (→80ページ) に従って撮影します。

- 表示パネルとファインダーの露出値は撮影順に補正された値を表示します。

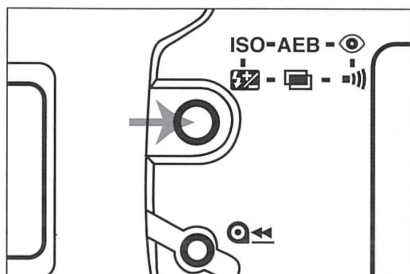



- 3コマの撮影が終わるまで表示パネルの AEB は点滅しています。
- AEB撮影は自動的に解除されません。解除するときは補正量を「0.0」に戻します。
- 連続撮影でシャッターボタンを全押しし続けていると3コマ連続して撮影されますが、ファインダー内の露出補正量は表示されません。
- セルフタイマーを併用したときは10秒後に自動的に3コマ連続撮影されます。

## 9. 多重露出 ( ) で撮る

撮影後フィルムを次のコマに送らず同じコマで複数回撮影することを多重露出撮影といいます。1度の操作で9回までの多重露出回数を設定することができます。多重露出撮影はクリエイティブゾーンで使用することができます。

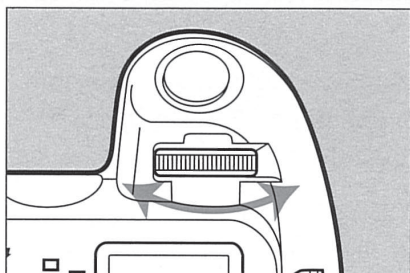
1 撮影モードを選択します。




2 ファンクションボタンを押して表示パネルに  を表示します。

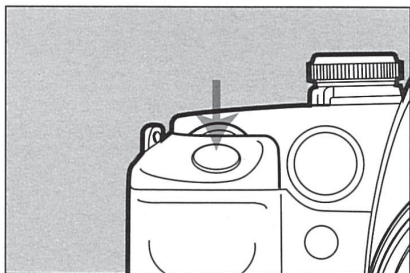


3 メイン電子ダイヤルを回して希望する多重露出回数を設定します。



4 シャッターボタンを半押しします。

- 表示パネルに  と多重露出回数が表示されたままになります。






## V 色々な機能を使ってみる



- 5 撮影します。
- 6 設定した多重露出回数の撮影が終了すると、フィルムは自動的に次のコマに巻き上げられ、多重露出撮影は解除されます。



- 多重露出撮影中は表示パネルの  が点滅します。
- 多重露出撮影を撮影開始前に解除するには、多重露出回数を「1」に設定します。
- 多重露出撮影の途中で多重露出を解除するときは、その時点で手順「1」「2」に従って設定してある多重露出回数を「空白」にします。この時シャッターボタンを半押しするか約6秒経過するとミラーが作動する音がしますが、露光は行われません。

多重露出は一つのコマに何度も撮影するので露出値をあらかじめマイナス側に設定しておく必要があります。72ページの「6. 露出の補正方法」を参照してください。

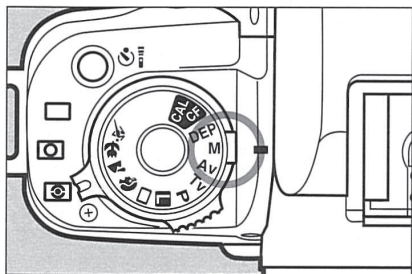
### 露出補正量の目安

多重露出の回数	2回	3回	4回
補正量の目安	-1.0	-1.5	-2.0

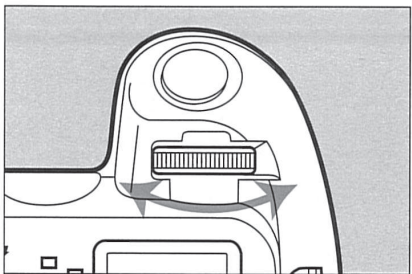
- この補正量はあくまでも一般的な目安です。補正量は撮影状況によって変わります。あらかじめ撮影データを求めておいてください。

# 10. バルブ撮影

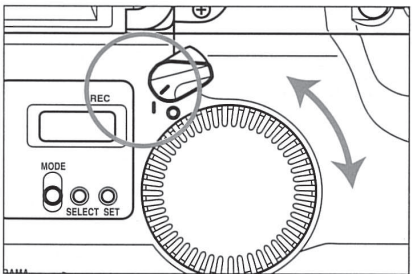
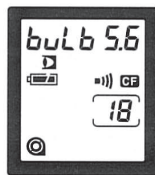
シャッターボタンを押している間シャッターは開いたままになり、シャッターボタンから指を離すとシャッターは閉じます。これをバルブ撮影といいます。リモートスイッチRS-60E3（別売）を併用すればシャッターボタンを押し続ける必要はありません。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露出が必要なときに設定します。



1 撮影モードダイヤルを **M** にします。



2 メイン電子ダイヤルでシャッター速度を **buLb** にします（30"の次が buLb です）。



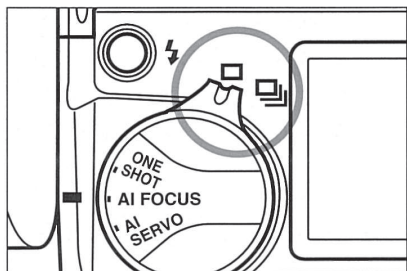
3 サブ電子ダイヤルで絞り数値を設定します。

- サブ電子ダイヤルを使用するときはサブ電子ダイヤルスイッチを（I）にします。

4 撮影します。

- バルブ撮影中は表示パネルの buLb が点滅します。
- バルブ撮影中はファインダー内の表示は消えます。

# 11. フィルム巻き上げモードの変更



フィルムの巻き上げには1枚撮りと連続撮影の2種類があります。フィルム巻き上げモードレバーを回して希望するフィルム巻き上げモードを選択します。フィルム巻き上げモードレバーにある記号とその機能の違いは次のとおりです。

## □ : 一枚撮り

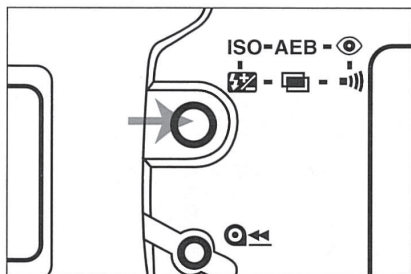
撮影したあとカメラが自動的にフィルムを1コマ巻き上げます。

## □ : 連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、1秒間に約2.5コマで連続して撮影します。

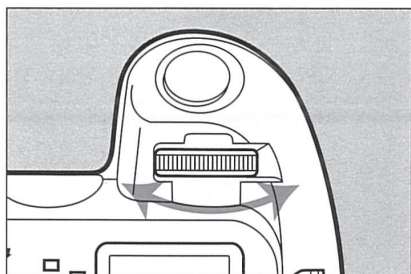
## 12. フィルム感度を手動で設定する

DXコードがついていないフィルムを使用する場合、あるいはフィルムに記載されているフィルム感度 (ISO) とは異なる感度を設定する場合には次のようにして手動で設定します。設定できる感度は6～6400です。

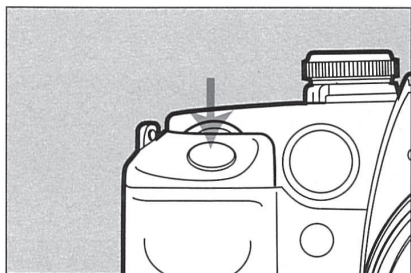


1 ファンクションボタンを押して表示パネルに **ISO** を表示します。

- ISO と一緒にそれまで設定されていた感度も表示されます。



2 メイン電子ダイヤルを回して、表示パネルに希望する感度を表示します。



3 シャッターボタンを半押しすると設定は完了します。



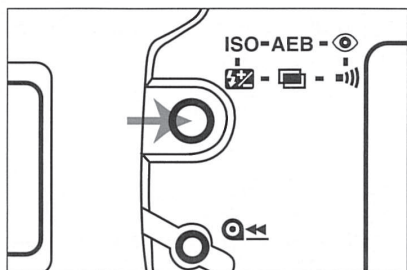
- フィルム感度自動設定の範囲はISO 25～5000です。
- DXコードのついていないフィルムをセットすると表示パネルにISOが点滅します。
- ファンクションボタンを押して表示パネルにISOを表示するとフィルム感度を確認することができます。




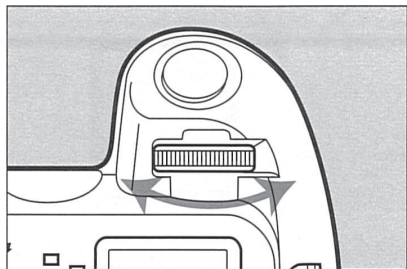
# 13. カメラの電子音を鳴らなくする

撮影場所によっては被写体にピントが合ったときやセルフタイマー作動時に鳴る電子音が邪魔になることがあります。クリエイティブゾーンで撮影するときこの電子音を鳴らないようにすることができます。

※ 全自動およびスポーツマーク (🏃) 以外のイメージゾーンでは全て電子音が鳴るようにセットされます。

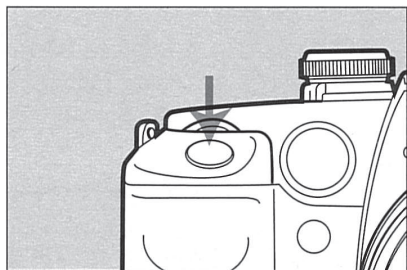


- 1 ファンクションボタンを押して表示パネルに  を表示します。




- 2 メイン電子ダイヤルを回して表示パネルに「0」を表示します。

- 電子音を鳴らすときは表示パネルに「1」を表示します。

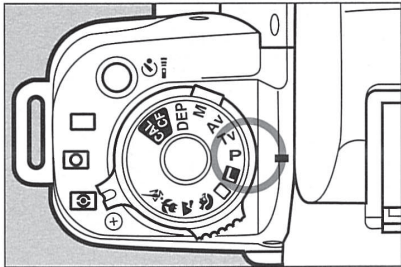


- 3 シャッターボタンを半押しして設定します。

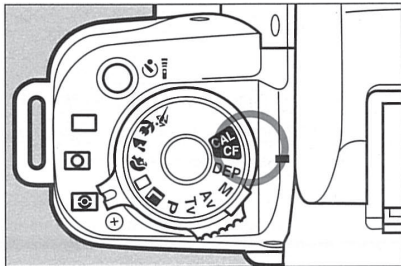
- 表示パネルから  が消えます。



## VI カスタム機能を利用しましょう

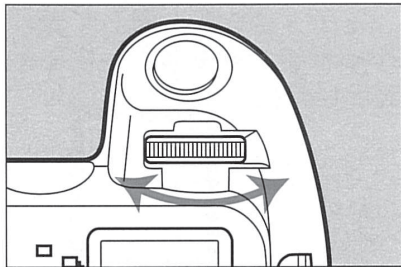


- 4 撮影モードダイヤルを戻します。
- 表示パネルに **CF** が表示されたままになります。



### カスタム機能の解除

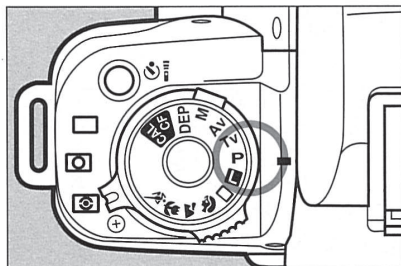
- 1 撮影モードダイヤルを **CF** にします。



- 2 メイン電子ダイヤルを回して表示パネルに設定を解除するカスタム機能番号を表示します。



- 3 カスタム機能設定ボタンを押して、表示パネルに「0」を表示します。
- 4 撮影モードダイヤルを戻します。



## カスタム機能で変更できる内容

イメージゾーンのモードでは、このカスタム機能は動きません。

カスタム機能番号	変更対象機能	対応数字	設定内容
C01	フィルム自動巻き戻しの設定	0 1	サイレント自動巻き戻しにする。 高速自動巻き戻しにする。
C02	フィルム巻き戻し終了時のフィルム先端状態	0 1	フィルム容器（パトローネ）に巻き込む。 フィルム容器（パトローネ）に巻き込まない。
C03	D Xコード・I S Oフィルム感度自動設定	0 1	する。 しない。
C04	AF作動の変更 ※1	0 1 2	シャッターボタン半押しでAF作動、AEロックボタン（*）でAEロックする。 AEロックボタンでAF作動、シャッターボタン半押しでAEロックする。 シャッターボタン半押しでAF作動、AEロックボタンで被写界深度確認する。
C05	セルフタイマー併用ミラーアップ撮影設定	0 1	通常のセルフタイマーリモコン撮影。（ミラーアップ撮影をしない。） セルフタイマー撮影時にシャッターボタン全押しでミラーが上がり、2秒後シャッターが切れる。またリモートコントローラーRC-1の2秒モード併用でミラーが上がってから2秒後にシャッターが切れる。
C06	後幕シンクロ撮影の設定	0 1	内蔵ストロボを先幕シンクロにする。 内蔵およびスピードライト380EXを後幕シンクロにする。
C07	AF補助光自動投光の設定	0 1	する。 しない。
C08	AFフレームに連動した部分測光／FEロックの設定	0 1	中央のAFフレームで部分測光／FEロックにする。 AFフレームに連動した部分測光／FEロックにする。※2
C09	絞り優先AEでストロボ撮影時のシャッター速度設定	0 1	シャッター速度を自動設定する。 シャッター速度を1/125秒に固定する。
C10	AFフレームのスーパーインポーズ設定	0 1	合焦時、AFフレームを光らせる。 合焦時、AFフレームを光らせない。
C11	視線入力による被写界深度確認機能	0 1	あり。（ONE SHOT AF合焦後、約6秒以内のみ入力可能） なし。

※1 カスタム機能番号C04を「1」または「2」に設定するとFEロック撮影はできません。

※2 AFフレームが自動選択AF時は、中央での部分測光／FEロックとなります。



# [ VII ] キヤノンスピードライト 380EXとの組み合わせによる E-TTL自動調光システム

このカメラとキヤノンスピードライト380EXを組み合わせると、E-TTL自動調光システムとして全てのシャッター速度に同調発光するハイスピードシンクロ（FP発光）撮影や、FEロック撮影ができます。

キヤノンスピードライト380EXをカメラに取り付けるときはスピードライト380EXの使用説明書を参照して取り付けてください。

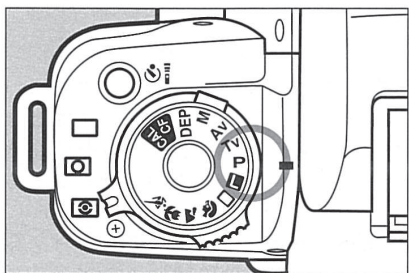
## E-TTL自動調光システムの特長

このカメラとスピードライト380EXを組み合わせることによりE-TTL自動調光撮影を行うことができます。E-TTL自動調光システムは、従来のA-TTL、TTL自動調光システムが多分割調光センサーによってストロボ露出の制御を行っていたのに対して、通常の評価測光撮影と同じように測光センサーを利用して自動でストロボ露出制御を行います。E-TTL自動調光システムは、きめ細かなストロボ露出制御を行い、「AIMシステム」（多点AFフレームに測光、調光を連動させたシステム）をパワーアップしたストロボシステムになっています。

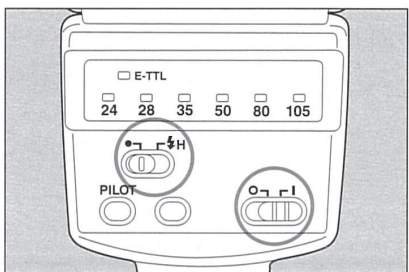
E-TTL自動調光システムは、日中、暗中也とも主被写体ばかりでなく、背景に対しても良好な描写を実現する自動露出制御とストロボ発光量制御を一つにしたストロボシステムです。またこのシステムによって、ハイスピードシンクロ（FP発光）撮影やFEロック撮影も可能になっています。ここでは、EOS55とスピードライト380EXを組み合わせた基本的な操作を説明しています。詳細はスピードライト380EXの使用書をご確認ください。



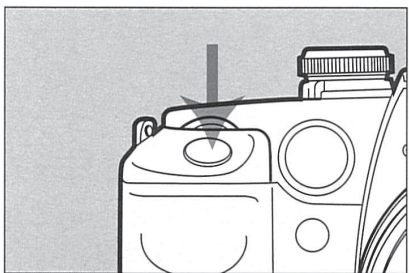
## 通常発光撮影



- 1 カメラの撮影モードダイヤルをDEPを除く撮影モードにします。
  - DEP（深度優光AE）モードでストロボ撮影するとP（プログラムAE）によるストロボ撮影と同じ結果になります。



- 2 キヤノンスピードライト380EXのメインスイッチを入れます。
- 3 キヤノンスピードライト380EXのハイスピードシンクロ（FP発光）スイッチを緑点（通常発光）にします。



- 4 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。
  - E-TTLランプが点灯します。



- 5 カメラのファインダー内の点灯とシャッター速度、絞り数値を確認して、シャッターボタンを全押しし、撮影します。



スピードライト380EXでのA-TTL撮影はできません。

## ハイスピードシンクロ（FP発光）撮影

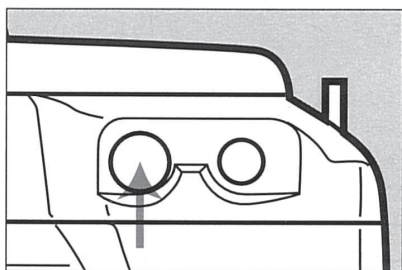
キヤノンスピードライト380EXのハイスピードシンクロ（FP発光）スイッチを **H** にしておくと、シャッター速度が1/125秒より高速側に設定されても、自動的にハイスピードシンクロ（FP発光）となり全てのシャッター速度に同調したストロボ撮影が可能となります。キヤノンスピードライト380EXがハイスピードシンクロ（FP発光）状態になるとカメラのファインダー内 **H** 右にHが表示され、ハイスピードシンクロ（FP発光）であることを示します。

ハイスピードシンクロ（FP発光）は日中シンクロによるポートレート撮影で、絞りを開いて背景をぼかす、キャッチライトを入れる、被写体のシャドウ部に補助光を当てるなどに有効です。

- ハイスピードシンクロ（FP発光）はストロボのG.N.（ガイドナンバー）が下がります。自然光の光量が十分でないときのハイスピードシンクロ（FP発光）撮影は露出がアンダーになりますのでご注意ください。
- ハイスピードシンクロ（FP発光）はクリエイティブゾーンに限り撮影可能です。イメージゾーンでは通常ストロボ撮影となります。

## FEロック撮影

FEロック撮影はファインダー上の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。この撮影時はクリエイティブゾーンのモードにおいてカメラのAEロックボタンがFE（Flash Exposure）ロックボタンとして機能します。



- 1 撮影モードをクリエイティブゾーン（**P, Tv, Av, M, DEP**）に設定します。
- 2 380EXのハイスピードシンクロスイッチが緑点（通常発光）に設定されていることを確認します。
- 3 露出を合わせたい被写体にピントを合わせます。  
（この時シャッターボタンは半押しの状態を維持してください。）
- 4 被写体を中央のAFフレームに合わせてFEロックボタンを押します。
  - FEロックされたAFフレームが一瞬赤く光ります。



## Ⅶ キヤノンスピードライト380EXとの組み合わせによるE-TTL自動調光システム



- キヤノンスピードライト380EXがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶します。  
(この時ファインダー内に約0.5秒FEロック表示(FEL)が表示されます。)
- FEロックボタンから指を離してもタイマーの働きで16秒間は適正な露光量が記憶されます。



### 5 シャッターボタンを全押しして撮影します。

通常はFEロックは中央のAFフレームで行ってください。

FEロックの機能するAFフレームはカスタムファンクションC08の設定内容と、AFフレームの設定内容によって以下の表のようになります。

カスタムファンクションの設定 AFフレーム	C08-0	C08-1
測距点自動選択AF	中央	中央
測距点任意選択AF	中央	選択されたAFフレーム
測距点視線選択AF	中央	選択されたAFフレーム*

\*シャッターボタンを半押しする前にFEロックしたときは、中央のAFフレームによりロックされます。

### スピードライト380EX以外のEOS専用スピードライトとの組み合わせ



このカメラとEOS専用スピードライト(540EZ、430EZ、420EZ、300EZなど)を組み合わせると、3分割A-TTL/TTL自動調光で、通常の自動撮影と同じ感覚で簡単にストロボ撮影することができます。

また専用の多灯アクセサリを利用して複数のストロボを使用した多灯ストロボ撮影では、面倒な露出計算をすることなく3分割TTL自動調光による多灯ストロボ撮影を簡単に行うことができます。












# 「故障かな？」とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の表を参考にしてカメラをチェックしてみてください。それでも症状に変化がなければ、カメラを最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください（裏表紙にサービスセンターの一覧があります）。

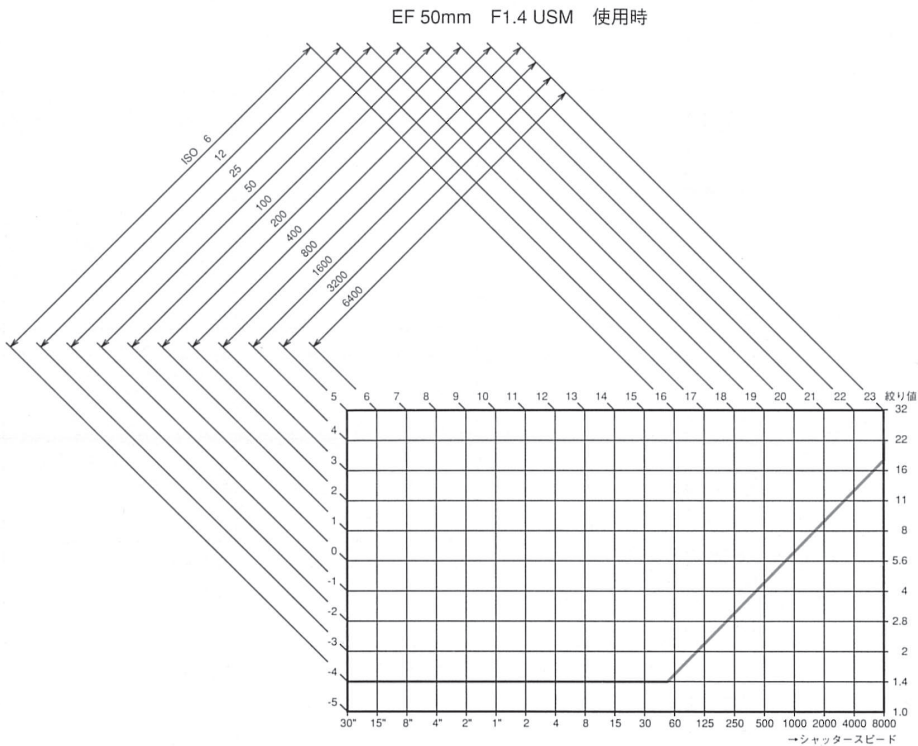
症状	原因	解決方法	参照頁
1. 表示パネルに表示がない	電池が消耗していませんか？	電池を新しいものと交換してください。	17
	電池が逆向きに入っていませんか？	電池を正しい向きに入れなおしてください。	17
2. シャッターが切れない	フィルムは正しくセットされていますか？（表示パネルにフィルム枚数が表示されていますか？）	フィルムを正しく入れなおしてください。	21
	巻き戻されたフィルムがカメラに入っていませんか？（表示パネルのフィルム枚数表示が  になっていませんか？）	フィルムを新しいフィルムと交換してください。	23
	ピントは合っていますか？（ファインダー内の合焦ランプが点滅していませんか？）	もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせなおしてください。それでもピントが合わないときはレンズのフォーカスモードスイッチをM（MANUAL: 手動）にセットし、レンズの手動フォーカスリングを回して、ピントを合わせます。	39
3. 写真がボケて写っている	レンズのフォーカスモードスイッチがM（MANUAL: 手動）になっていませんか？	レンズのフォーカスモードスイッチをAF（AUTOFOCUS: 自動）にしておってください。	19
	シャッターボタンを押すときに手ぶれを起こしていませんか？	手ぶれを起こさないようにシャッターボタンを静かに押ししてください。	20
4 表示パネルに  のみが点滅している	電池の容量が極端に少なくなっています。	電池を新しいものと交換して、電池マークが点灯すれば正常に撮影できます。	18
	なんらかの理由でカメラが誤動作していると考えられます。	シャッターボタンを半押しして、電池マークが点灯すれば正常に撮影できます。 *以上の操作を何度しても電池マークが点灯しないときはカメラの故障です。カメラを最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください。	18 裏表紙
5 プリントの上下が黒くなり、人の頭が切れてしまう。	パノラマ撮影のまま標準サイズのつもりで撮影していませんか？	標準撮影のときはパノラマ・標準サイズ切り換えレバーを標準サイズにしてください。	61

# 露出警告一覧

撮影モード ダイアルのマーク	表示警告 (点滅)	意味	対応
P	 シャッター速度30"と 使用レンズの最小絞り 数値、開放絞り数値	被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してくだ さい。
	 シャッター速度4000と 使用レンズの最大絞り 数値	被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使 用してください。
Tv	 使用レンズの最小絞り 数値	露出アンダーになります。	電子ダイアルでシャッター 速度を遅くしてください。
	 使用レンズの最大絞り 数値	露出オーバーになります。	電子ダイアルでシャッター 速度を速くしてください。
Av	 シャッター速度30" シャッター速度30"	露出アンダーになります。	電子ダイアルで絞り数値を 小さくしてください。
	 シャッター速度4000 シャッター速度4000	露出オーバーになります。	電子ダイアルで絞り数値を 大きくしてください。
DEP	 セットされた絞り数値	希望する被写界深度が得られ ません。	1)被写体からできるだけ離れ て再度操作してください。 2)ズームレンズを使用してい る場合は、広角側にセット してください。
	 シャッター速度30"と使 用レンズの最小絞り数 値	被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。  (この時、プログラムAE撮影 でのストロボ使用と同じ結 果になります。)
	 シャッター速度4000 と使用レンズの最大 絞り数値	被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使 用してください。

# プログラム線図

レンズにEF50mm F1.4を使用して、プログラムAE (P) に設定したときのプログラム線図を以下に示します。



# 機能組み合わせ一覧

撮影モード のマーク	AF			給送		測光
	ワンショット	AIサーボ	AIフォーカス	一枚撮り	連続撮影	評価測光
			●	●		●
	●				●	●
	●			●		●
	●			●		●
		●			●	●

撮影モード のマーク	ストロボ		測距点			合焦音	途中巻き戻し	赤目	セルフ
	自動発光	OFF	視線	自動	任意				
	●			●	—	●	○	○	○
	●		○	○	—	●	○	○	○
		●	○	○	—	●	○	○	○
	●		○	○	—	●	○	○	○
		●	○	○	—		○	○	○

●：自動セット      ○：選択可能または設定可能

## ●AFフレームの選択と測光方式の組み合わせによるAEロックの効果 (撮影モードがクリエイティブゾーンの時)

測光方式		AFフレームの選択	任意のAFフレームを選択/視線入力AF	自動選択AF
評価測光			選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。
部分測光	カスタム機能番号C08を0に設定		中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。
	カスタム機能番号C08を1に設定		選択したAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。*	
中央部重点平均測光			中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。	

\*視線入力AF時、シャッター半押し前にAEロックボタンを押すと中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックします。

## ●AFモードとフィルム巻き上げの関係

フィルム巻き上げ	ONE SHOT AF	AI SERVO AF
(一枚撮り)	AF完了まではレリーズ不可、AF完了と同時にAFロック (ピントロック) およびAEロック (撮影前の露出値を記憶)。	AFは被写体の動きに合わせて追従、露出はシャッターが切れる瞬間に決定。
(連続撮影)	上と同じ条件で連続撮影となる。	上と同じ条件で連続撮影となる。

● AI FOCUSの場合は被写体の状況によりONE SHOT AFからAI SERVO AFに自動的に切りかわります。

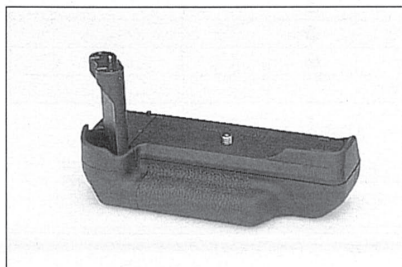


# 主なアクセサリー



## EOS専用スピードライト

専用スピードライトとしてアクセサリーシューに取り付けて使用するクリップオンタイプの大光量ズームストロボ380EX（最大ガイドナンバー38/ISO 100・m）、540EZ（最大ガイドナンバー54/ISO 100・m）、などがあります。



## 単3形バッテリーパックBP-50 **NEW**

縦位置シャッターボタンを持ったバッテリーパックで延長グリップを兼ねています。電源には入手しやすい単3形アルカリマンガン乾電池を4本使用します。単3形アルカリマンガン乾電池の代わりに、単3形Ni-Cd電池やリチウム電池2CR5を使用することもできます。



## バッテリーパックBP-5B **NEW** (for BP-50/BP-50用電池室蓋付)

単3形バッテリーパックBP-50と併用して、さらに長時間撮影を可能にするバッテリーパックです。電源には入手しやすい単1形アルカリマンガン乾電池あるいは単1形Ni-Cd電池を4本使用します。



## リモートコントローラーRC-1

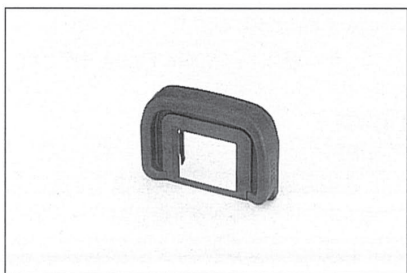
離れたところからカメラのシャッターを切ることができます。セルフタイマー撮影、バルブ撮影、接写や複写などに利用すると便利です。

- 接写や複写をするときにミラーの作動によるカメラぶれを防ぐため、カスタム機能番号C05とカメラのセルフタイマー／リモコンボタンを併用してミラーアップ撮影ができます。



### リモートスイッチRS-60E3

マクロ撮影や長時間露光（バルブ撮影）のときに三脚と併用してカメラぶれを防ぐ専用のケーブルリリースです。カメラのリモコンジャックに接続して使います。



### 視度補正レンズ Ed

NEW

接眼部を大きくカバーするアイカップ付きの視度補正レンズを取り付ければ、近視や遠視の方でも眼鏡なしで撮影することができ、視線入力AFを使用することもできます。カメラ本体の視度は-1ジオプターですが交換用視度補正レンズとして10種類が用意されています。実際にカメラに取り付けてファインダーをのぞいた上で買い求めください。視度補正レンズと眼鏡を併用すると、眼鏡の種類によっては視線入力できない場合がありますのでご了承ください。



### カメラケース（EH9-L）

カメラを保護するためのケースとしてレンズを付けたまま収納することができる専用セミハードケースがあります。

収納可能レンズ：EF 28-80/3.5-5.6Ⅲ USM  
：EF 28-105/3.5-4.5 USM等

# 主な性能の一覧

- 型式 . . . . . モータードライブ・ストロボ・オートデート内蔵35mmフォーカルプレーン  
シャッターAF/AE一眼レフカメラ
- 画面サイズ . . . . . 24×36mm パノラマ撮影時 13.3×36mm
- 使用レンズ . . . . . EFレンズ群（開放測光にて使用）
- レンズマウント . . . . . キヤノンEFマウント（完全電子制御方式）
- ファインダー . . . . . ペンタプリズム使用のアイレベル式  
視野率；上下90%、左右92%  
倍率；0.71倍（50mmレンズ付き無限遠状態で）  
標準視度；-1ジオプター（アイポイント19.5mm）  
フォーカシングスクリーン；固定式、AFフレーム被写界深度確認マーク、パ  
ノラマフレーム付き全面ニューレーザーマットスクリーン
- ミラー . . . . . クイックリターン式ハーフミラー（ミラー切れ：EF300m F2.8とEXT2X装  
着時までなし）
- 測光方式 . . . . . 受光素子に6分割SPC使用のTTL開放測光  
①評価測光（3つのAFフレームに対応）  
②部分測光（測光範囲はファインダー画面の約9.5%）③中央部重点平均測光
- 撮影モード . . . . . ①インテリジェントプログラムAE（シフト可） ②シャッター優先AE  
③絞り優先AE ④深度優先AE（シフト可） ⑤全自動（シフト不可）  
⑥イメージセレクト機能（4種内蔵）  
⑦ストロボAE；380EXとの組み合わせ/E-TTLプログラムストロボAE 内  
蔵ストロボ/TTLプログラム380EX以外のEOS用スピードライトとの組み合わ  
せ/A-TTL、TTLプログラムストロボAE ⑧マニュアル
- 手振れ警告 . . . . . 全自動、イメージセレクトモード時に作動。自動的にセットされたシャッ  
ター速度が使用レンズの「1/焦点距離」マイナス「0~0.5段以下」となった場  
合、シャッター速度の点滅で警告
- 測光範囲 . . . . . EV 1~20（常温常湿）50mmF1.4レンズ使用換算、ISO 100
- 使用フィルム感度 . . . . . ISO 6~6400、DXコード自動対応 ISO 25~5000
- 露出補正 . . . . . 1/2段ずつ±2段
- オートブラケティング . . . . . 1/2段ずつ±2段。適正、露出アンダーおよび露出オーバーの順で連写および単写  
多重露出 . . . . . 9回まで予約可能。
- AF制御方式： . . . . . マルチBASISによるTTL-CT-SIR方式  
①ONE SHOT AF；測距完了にて停止、測距完了後にリリース可能  
②AI SERVO AF；被写体の動きに追従、随時リリース可能、動体予測機能  
装備  
③AI FOCUS AF；ONE SHOT AFでとらえた被写体が移動を始めると、その  
移動量を検知して自動的にAI SERVO AFに切り換わる  
④マニュアルフォーカス；フォーカスモードスイッチをMにし、手動フォー  
カシングを回すことにより可能

- AF測距輝度範囲：・・・EV0～18 (ISO 100)
- AFフレーム切り換え：・・・①自動選択AF；カメラによる自動選択  
 ②手動選択AF；3つのAFフレームから任意の1つを選択  
 ③視力入力AF；視線入力によるAFフレーム選択
- AF補助光：・・・・・・被写体条件に応じて3つのAFフレームに対応した内蔵AF補助光を自動的に投光（到達距離：中央部6.5m、周辺部4m、焦点距離28～135mmまで対応）
- シャッター：・・・・・・縦走りフォーカルプレーン式全速電子制御シャッター
- シャッター速度：・・・・1/4000～30秒およびバルブ(1/2段ステップ)
- セルフタイマー：・・・・電子制御式（時限約10秒）
- フィルム装てん：・・・・自動、フィルムセット後背ふたを閉じると、1枚目まで自動空送りし停止
- 巻き上げ：・・・・自動巻き上げ  
 ①一枚撮り  
 ②連続撮影（秒間最高約2.5コマ）
- 巻き戻し：・・・・・・フィルム終了と同時に自動巻き戻し
- 内蔵ストロボ：・・・・・・ペンタ部内蔵リトラクタブル式3分割TTL自動調光ストロボ、直列制御式  
 ①ガイドナンバー；13(ISO 100・m)  
 ②充電時間；約2秒  
 ③照射角；焦点距離28mmに対応  
 ④発光条件；全自動、ポートレート、クローズアップで逆光時および低輝度時に自動発光、クリエイティブゾーンではストロボボタンにより強制発光
- 調光絞り値：・・・・・・①各プログラムAE；TTLプログラムにより調光絞り値を自動セット  
 ②Av、マニュアル；任意の絞り数値を手動セット  
 ③Tv；手動セットしたシャッター速度に対し、絞り数値を自動セット
- 同調シャッター速度：・・・・①各プログラムAE；1/60～1/125秒に自動セット  
 ②Av；セットした絞り数値に対し30"～1/125秒自動セット  
 ③Tv、マニュアル；1/125秒以下の任意のシャッター速度を手動セット
- フラッシュ接点：・・・・X接点；アクセサリースルー部に直結接点あり
- グリップ：・・・・・・バッテリーパックBP-50（別売）の取り付け可
- 表示パネル：・・・・・・シャッター速度、絞り数値、フィルム感度、電池チェック、露出補正などの表示を必要に応じて行う
- カスタム機能：・・・・・・11種内蔵、選択可
- 電源：・・・・・・リチウム電池パック(2CR5) 1個  
 バッテリーパックBP-50使用時；単3形電池又は2CR5使用可  
 バッテリーパックBP-5B（BP-50用電池室蓋付使用時；単1形電池使用可）
- バッテリーチェック：・・・・モードダイヤルL位置解除で自動バッテリーチェック、表示パネル上に4段階表示
- 大きさ：・・・・・・152.5 (W) × 104.5 (H) × 71 (D) mm
- 質量：・・・・・・595g（ボディのみ）



## 主な性能の一覧

- 日付/時刻写し込み機能

方式：・・・・・・液晶表示式、クォーツデジタル時計内蔵オートカレンダー（西暦2019年まで、うるう年自動修正）

写し込みデータ：・・・・①年・月・日、②日・時・分、③写し込み無し、④月・日・年、⑤日・月・年

写し込み色：・・・・オレンジ色

時計機構：・・・・常温20℃下で月差±90秒以下

電源：・・・・リチウム電池CR2025、1個 寿命約3年

- レンズ・・・・EF28-80 F3.5-5.6 IV USM      EF28-105 F3.5-5.6 USM      EF75-300 F4-5.6 USM

画角

対角線・・・・75°~30'      75°~23° 20'      32° 11'~8° 15'

垂直・・・・46°~17°      46°~13°      18° 11'~4° 35'

水平・・・・65°~25°      65°~19° 20'      27°~6° 50'

レンズ構成枚数・・・・10群10枚      12群15枚      9群13枚

最小絞り・・・・22~32      22~29      32~45

撮影距離範囲・・・・0.38m ~ ∞      0.5m ~ ∞      1.5m ~ ∞

最大撮影倍率と画界・・・・28mm      28mm      75mm

0.10 (255 x 393mm)      0.07 (379 x 589mm)      0.065 (372 x 558mm)

80mm      105mm      300mm

0.26 (91 x 135mm)      0.19 (123 x 184mm)      0.25 (95 x 142mm)

フィルター径と使用可能枚数・58mm 1枚      58mm 1枚      58mm 1枚

長さ x 最大径・・・・71.2 x 66.4mm      75 x 72mm      122.1 x 71mm

質量・・・・200g      375g      495g

- 都合により製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。  
（データはすべて当社試験条件によります）

# カスタム機能一覧

カスタム機能番号	変更対象機能
C01	フィルム自動巻き戻しの設定
C02	フィルム巻き戻し終了時のフィルム先端状態
C03	D Xコード・I S Oフィルム感度自動設定
C04	A F 作動の変更
C05	セルフタイマー併用ミラーアップ撮影設定
C06	後幕シンクロ撮影の設定
C07	A F 補助光自動投光の設定
C08	A F フレームに連動した部分測光／F E ロックの設定
C09	絞り優先A E でストロボ撮影時のシャッター速度設定
C10	A F フレームのスーパーインポーズ設定
C11	視線入力による被写界深度確認機能

## アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、10年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、キヤノンサービスセンターにお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本のフィルムを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。